

第2章 結果の概要

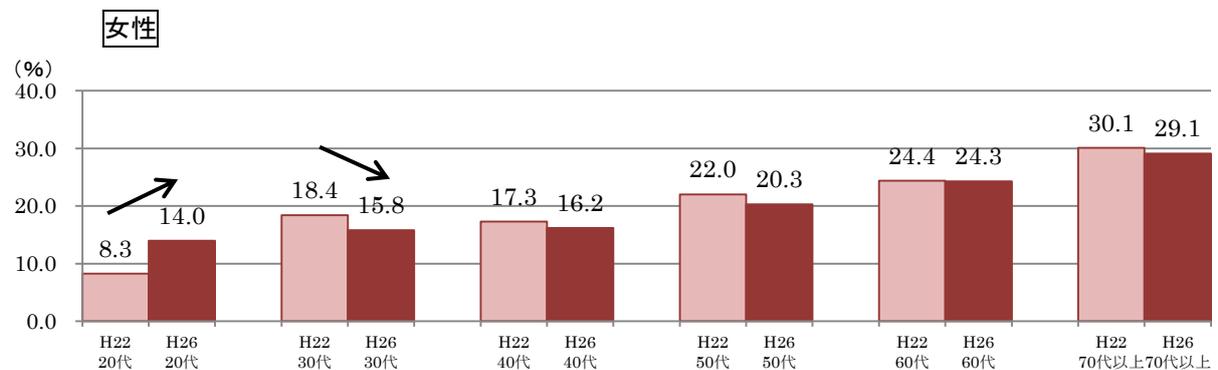
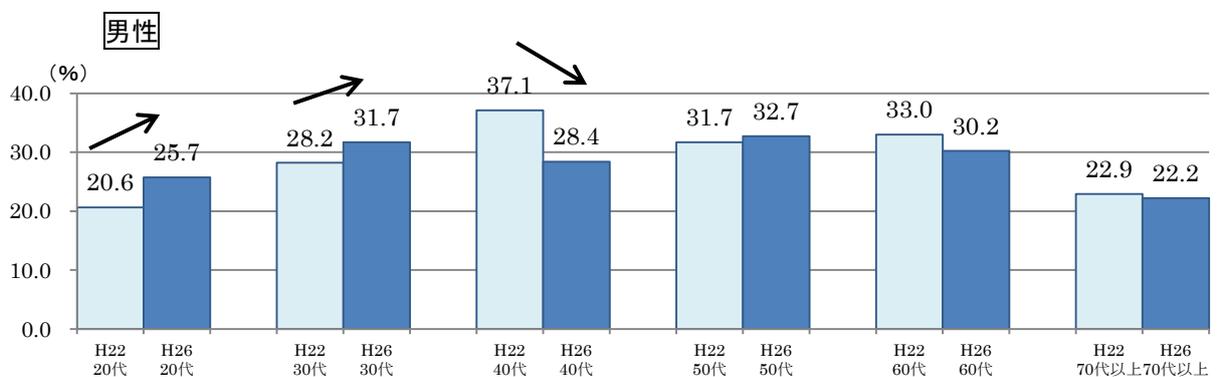
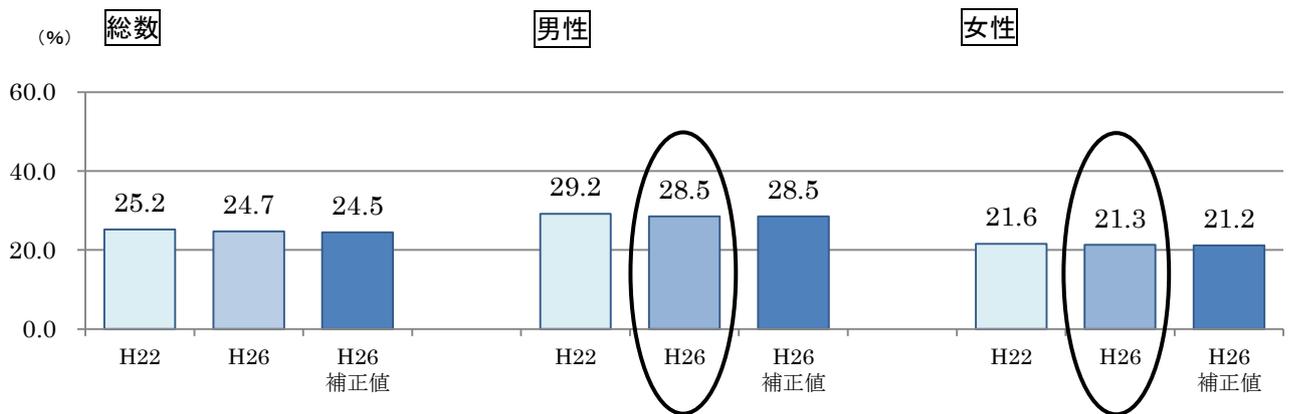
- * 調査結果に掲載している数値は小数点2位以下を四捨五入しているため、内訳合計と総数とが一致しない場合があります。
- * 県全体の平均値の補正については、平成22年県民健康・栄養調査における回答者の性別・年齢構成割合に合わせて補正を行っています。
- * 地区集計結果については、平成26年県民健康調査回答者の性別・年齢構成に合わせて補正を行っています。
- * ⑨は、これまでの県民健康調査の中で新規に追加された項目です。

第1 身体状況及び主観的健康感に関する状況

1 肥満の状況

肥満者（BMI 25 以上）の割合は、男性 28.5%、女性 21.3%だった。
 平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともほぼ横ばいだった。
 年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男性は 20 代、30 代、女性は 20 代で肥満者の割合が増加している一方、男性の 40 代、女性の 30 代では減少している。

図 1 肥満者（BMI25 以上）の状況

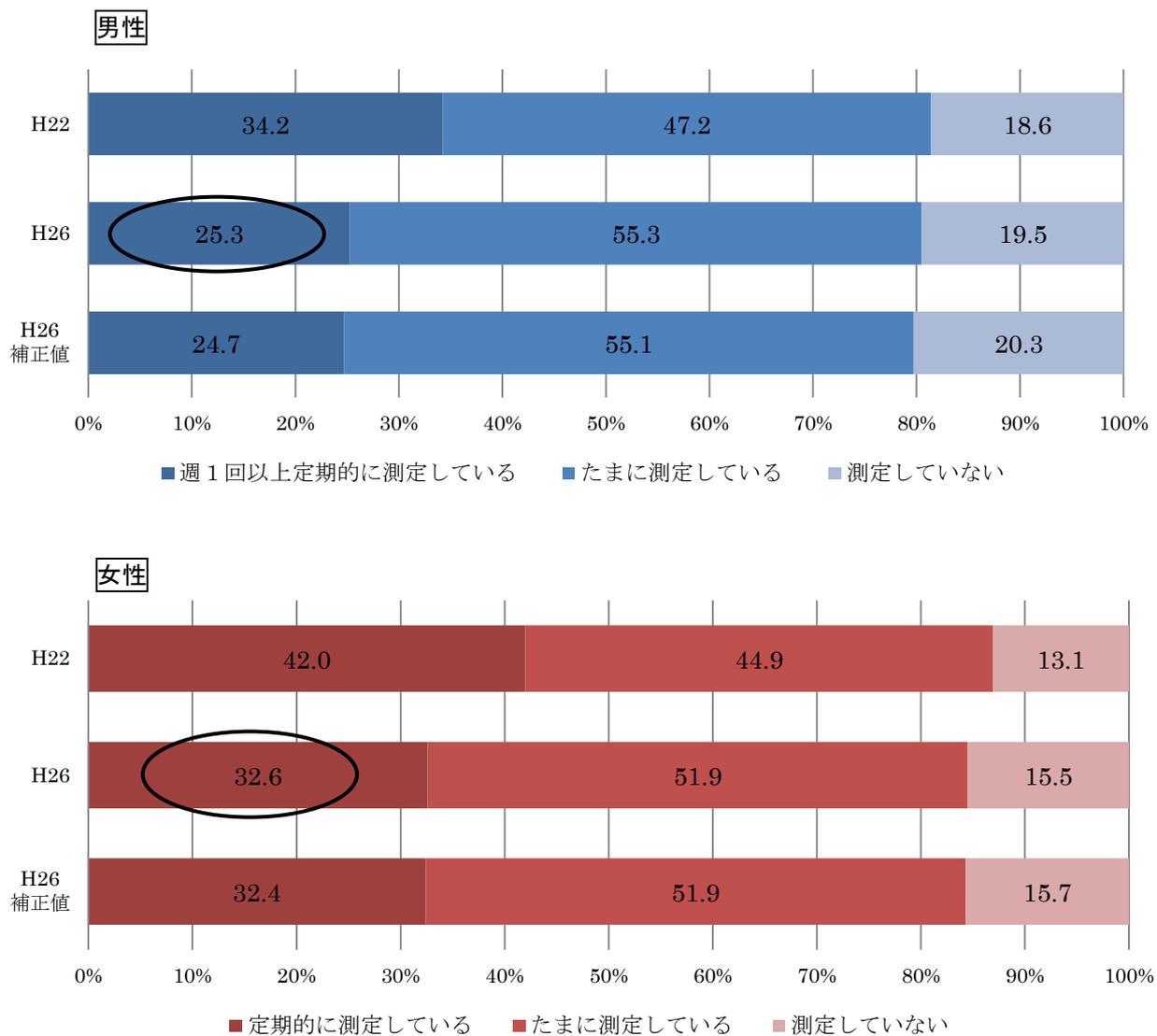


2 定期的に体重を計っている者の状況

体重を「週1回以上を定期的に測定している」と回答した者の割合は、男性 25.3%、女性 32.6%だった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともに減少している。

図2 定期的に体重を測定している者の状況

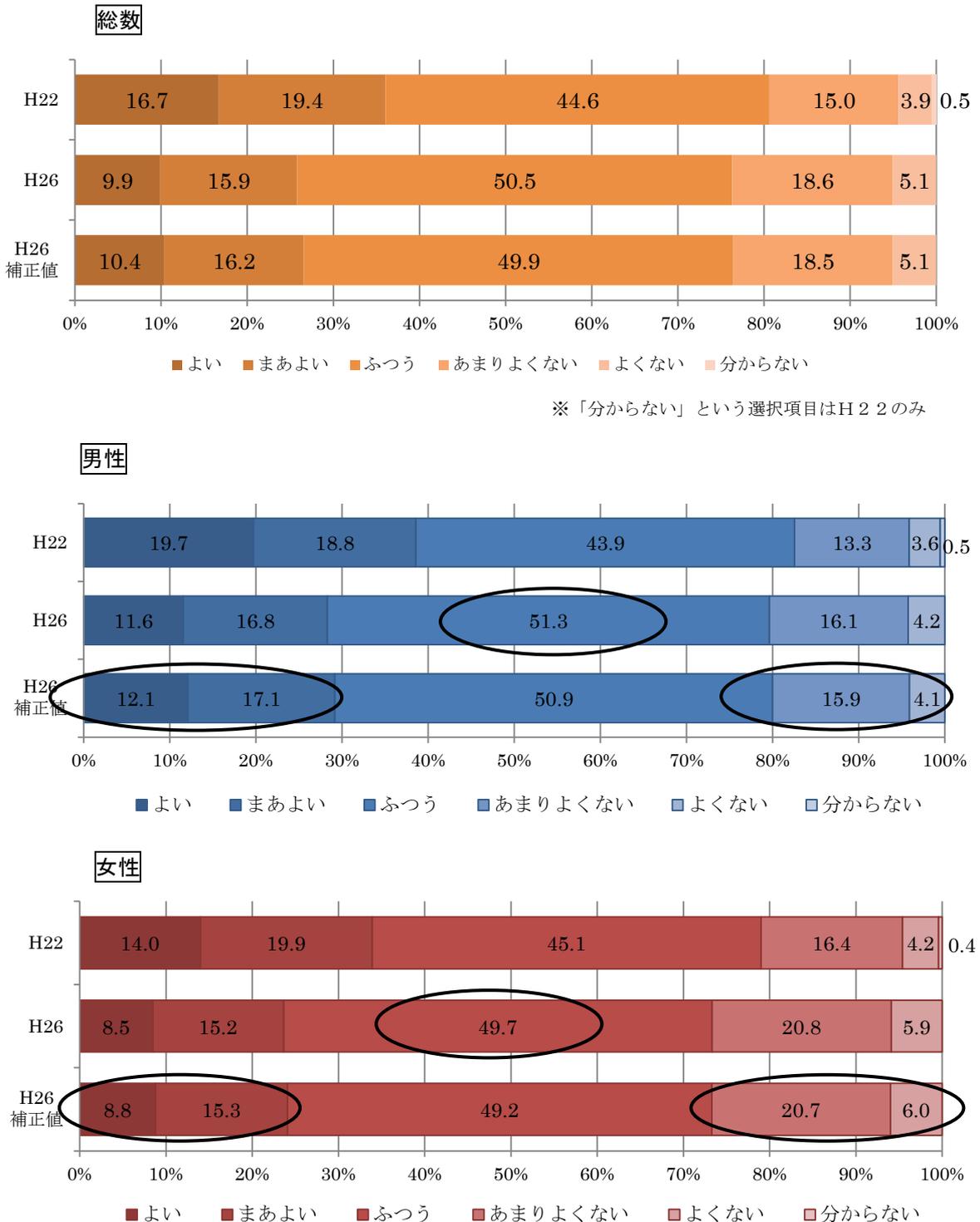


3 健康の状況（主観的健康観）

この1か月の自分の健康状態について、「ふつう」と回答した者が最も多く、男性では51.3%、女性では49.7%だった。

平成22年と年齢構成をそろえて比較すると、「よい」「まあよい」と回答した者の割合が減少し、「あまりよくない」「よくない」と回答した者の割合が男女とも増加している。

図3 自分の健康状態に関する健康観の状況

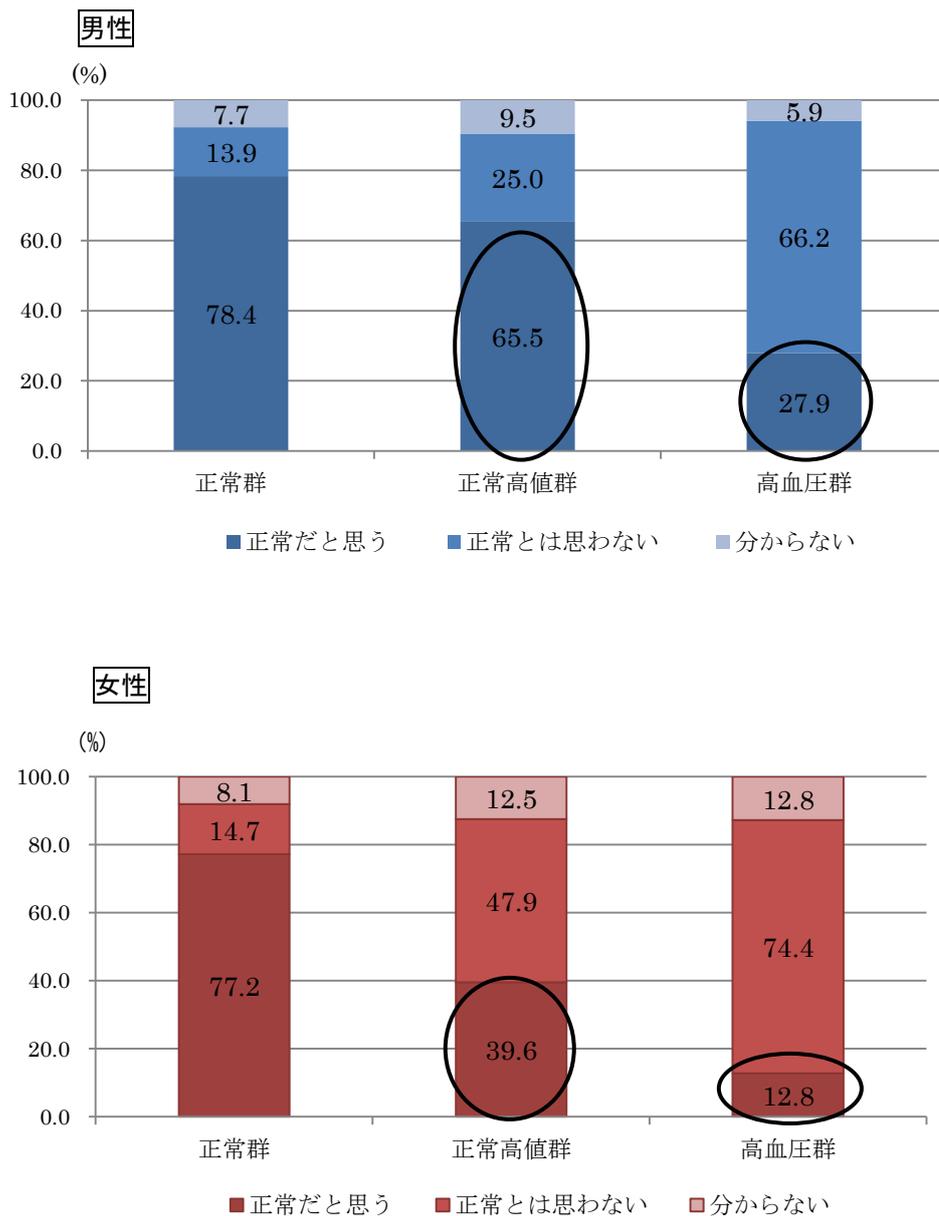


4 自分の血圧値の認識の状況

自己申告の血圧値が「正常高値」であっても「正常だと思う」と回答した者の割合は、男性 65.5%、女性 39.6%で、女性に比べ男性の割合が高い。

また、自己申告の血圧値が「高血圧群」であっても「正常だと思う」と回答した者の割合は、男性 27.9%、女性 12.8%で、女性に比べ男性の割合が高い。

図4 自分の血圧値の認識の状況



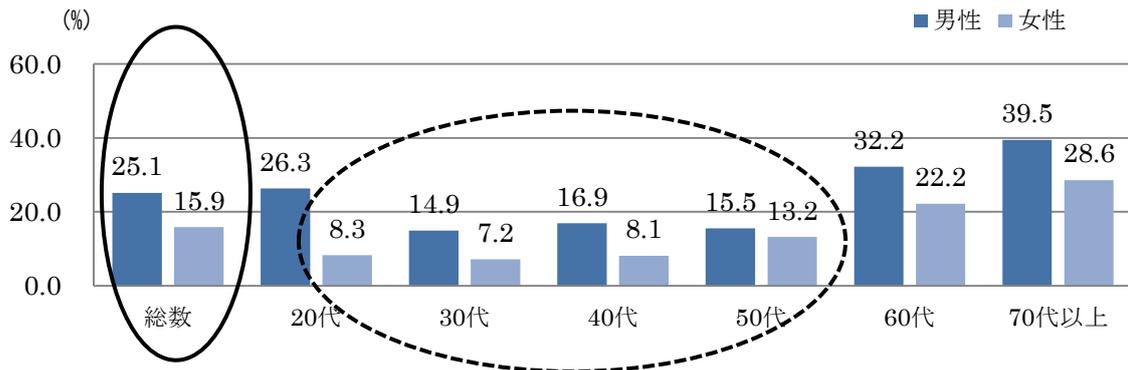
第2 運動に関する状況

1 運動習慣の状況

運動習慣のある者の割合は、男性 25.1%、女性 15.9%だった。

年齢階級別にみると、男女とも 30代で最も低く、男性は 30代から 50代、女性では 20代から 50代の働き盛り世代が全般に低くなっている。

図5 運動習慣者の割合



「運動習慣」の集計方法は、下記のとおり平成 25 年国民健康・栄養調査に準じて行った。

*** 運動習慣に関する母数について**

医師等から運動を禁止されていない（問 23 で 2 と回答）と回答し、かつ 1 週間の運動日数、平均運動時間、継続年数（問 24、問 25、問 26、問 28）のすべてに回答している者について集計。

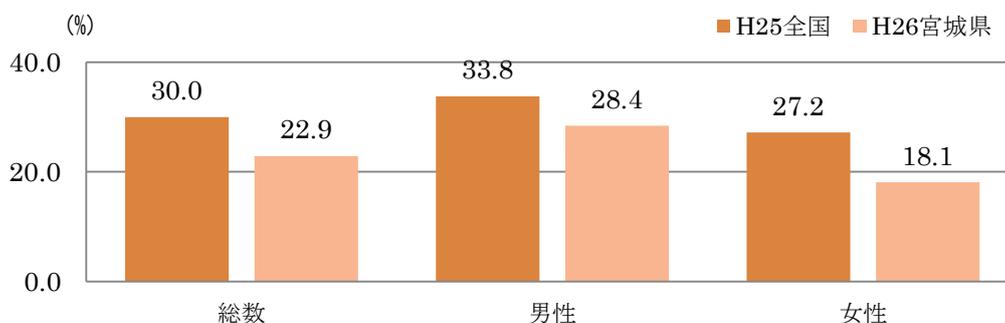
*** 運動習慣有（1 回 30 分以上の運動を週 2 回以上実施し、1 年以上継続している者）について**

医師等から運動を禁止されていない（問 23 で 2）と回答し、かつ 1 週間に 1 日以上運動をしている（問 24 で 1）と回答し、かつ 1 週間に 2 日以上運動している（問 25 で 2 以上を記載）と回答し、かつ 1 回 30 分以上（問 26 で 30 分以上と記載）と回答し、かつ 1 年以上継続している（問 28 で 2）と回答している者

* 「運動習慣者」とは、1 回 30 分以上の運動を週 2 回以上実施し、1 年以上継続している者。

【参考】

図6 運動習慣者の割合（国との比較）



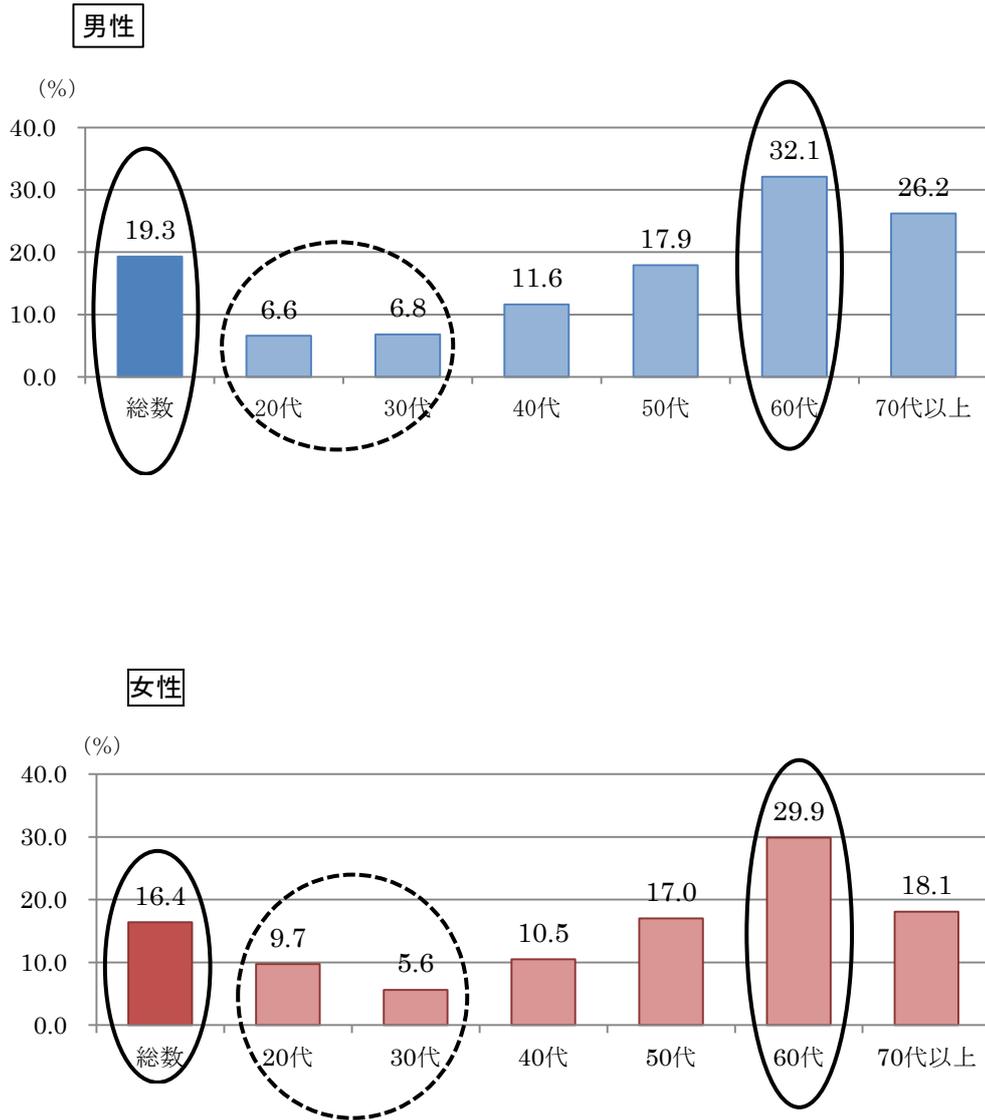
* H25 全国：平成 25 年国民健康・栄養調査

* H26 宮城県：平成 25 年国民健康・栄養調査回答者の性・年齢の分布に基づいて補正した

2 1日の歩数の認知状況

1日の歩数を「知っている」と回答した者の割合は、男性19.3%、女性16.4%だった。
 年齢階級別にみると、男女とも60代で最も高く、20代、30代で低い。

図7 1日の歩数を知っている者の状況

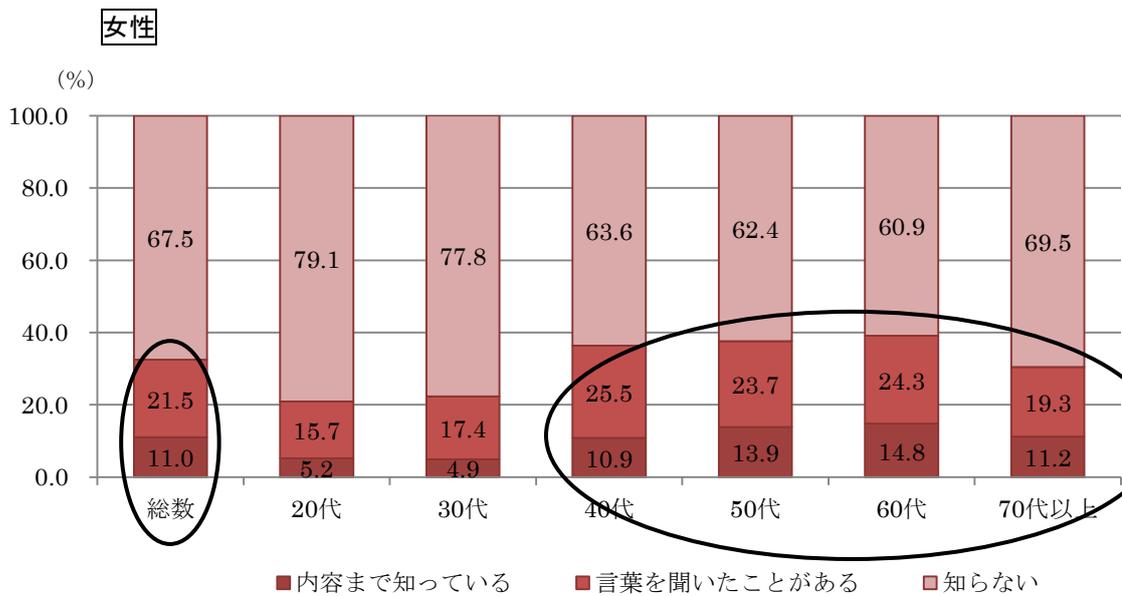
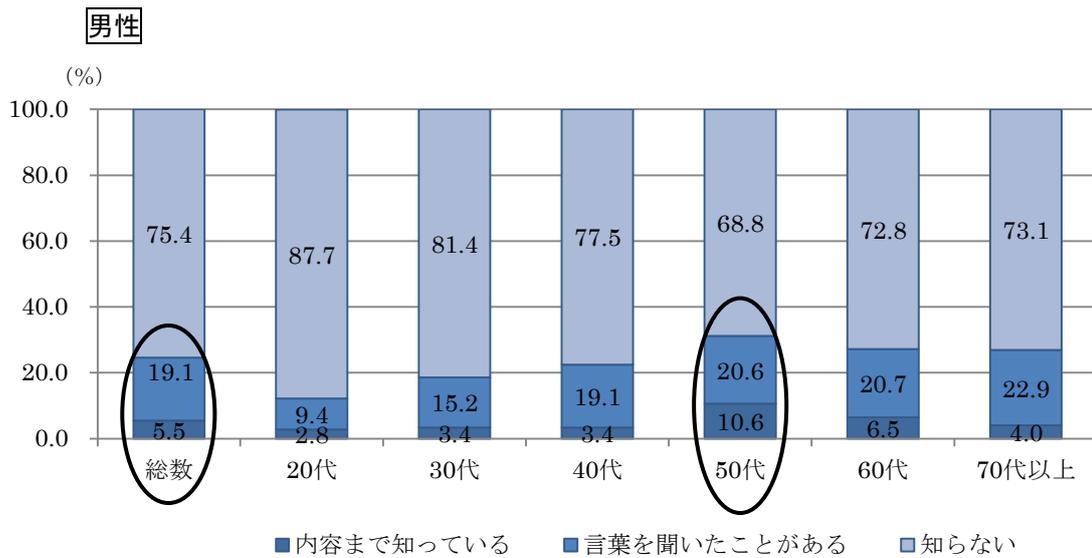


3 ロコモティブシンドロームの認知状況

ロコモティブシンドロームについて、「内容まで知っている」「内容は知らないが、言葉を聞いたことがある」と回答した者の割合は、男性 24.6%、女性 32.5%で、女性の割合が高い。

年齢階級別にみると、男性は 50 代で、女性は 40 代以上の全ての年代で、30%以上の者が「内容まで知っている」「内容は知らないが、言葉を聞いたことがある」と回答している。

図8 ロコモティブシンドロームの認知状況



第3 食生活に関する状況

1 朝食欠食者の状況

朝食欠食者（朝食を「週4～5日食べない」「ほとんど食べない」と回答した者）の割合は、男性14.3%、女性7.4%で、女性と比較し男性の割合が高い。

平成22年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともほぼ横ばいである。

年齢階級別では、平成22年と比較すると、男性では50代、女性では20代と50代以上で増加している一方、男性の20代で減少している。

図9 朝食の状況

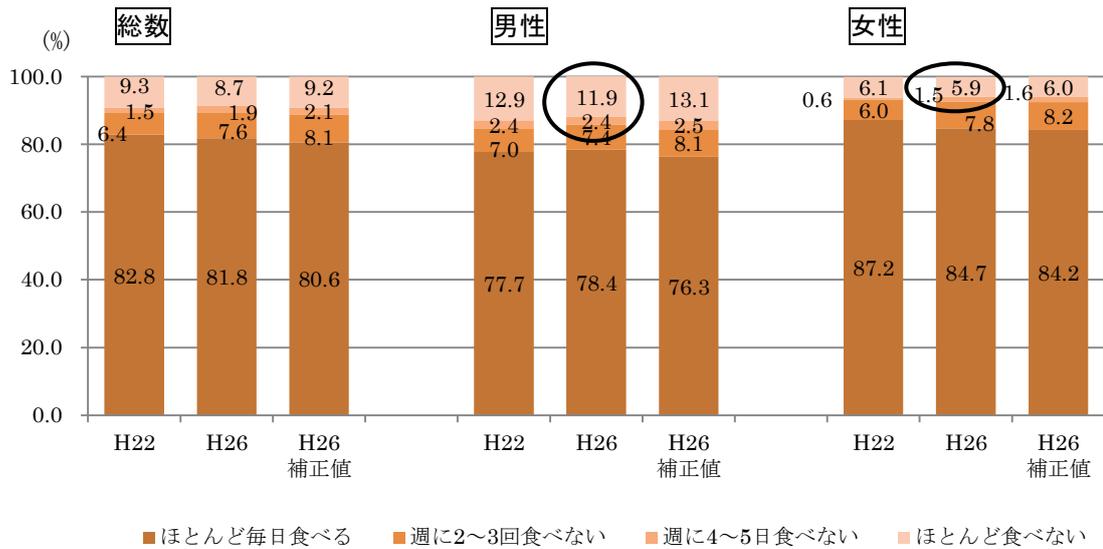
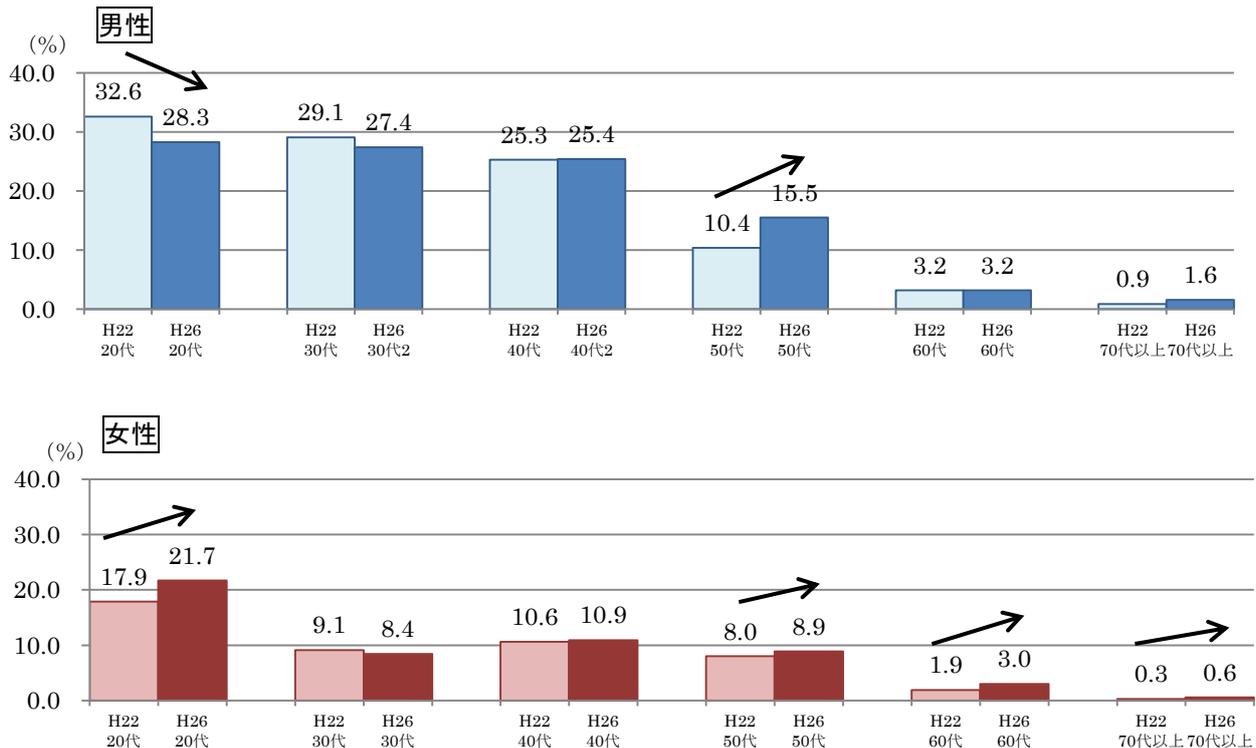


図10 朝食を「週4～5日食べない」「ほとんど食べない」と回答した者の割合



2 外食利用の状況

外食利用の状況について、「毎日2回以上」「毎日1回以上」利用すると回答した者の割合は、男性 12.7%、女性 5.7%だった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男性は減少しているが、女性はほぼ横ばいである。

年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男性の 20 代から 50 代、女性の 20 代、40 代、50 代で減少している一方、男性の 60 代、女性の 30 代、60 代以上で増加している。

図 1 1 外食利用の状況

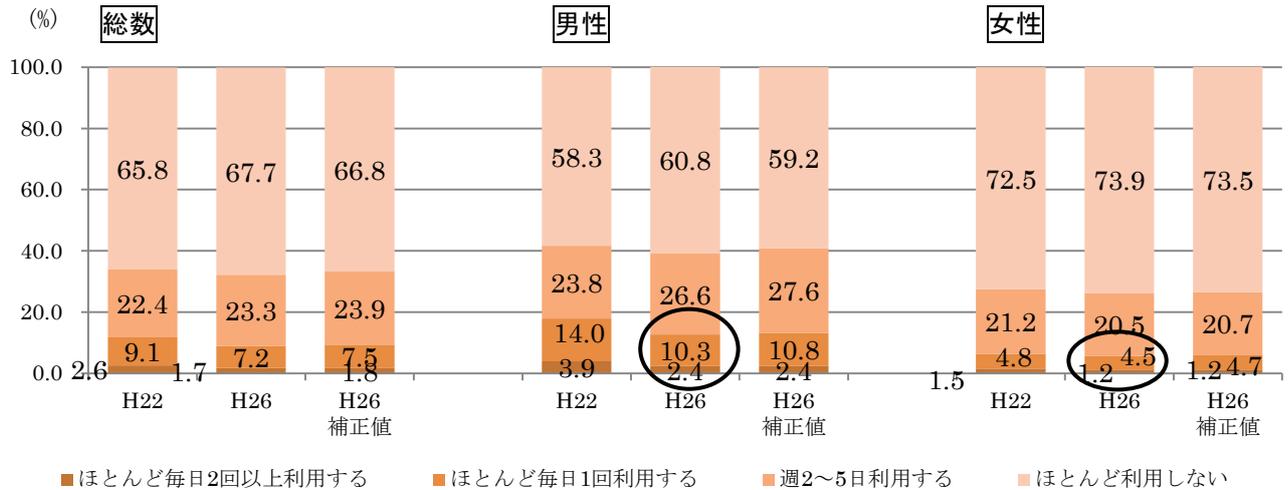
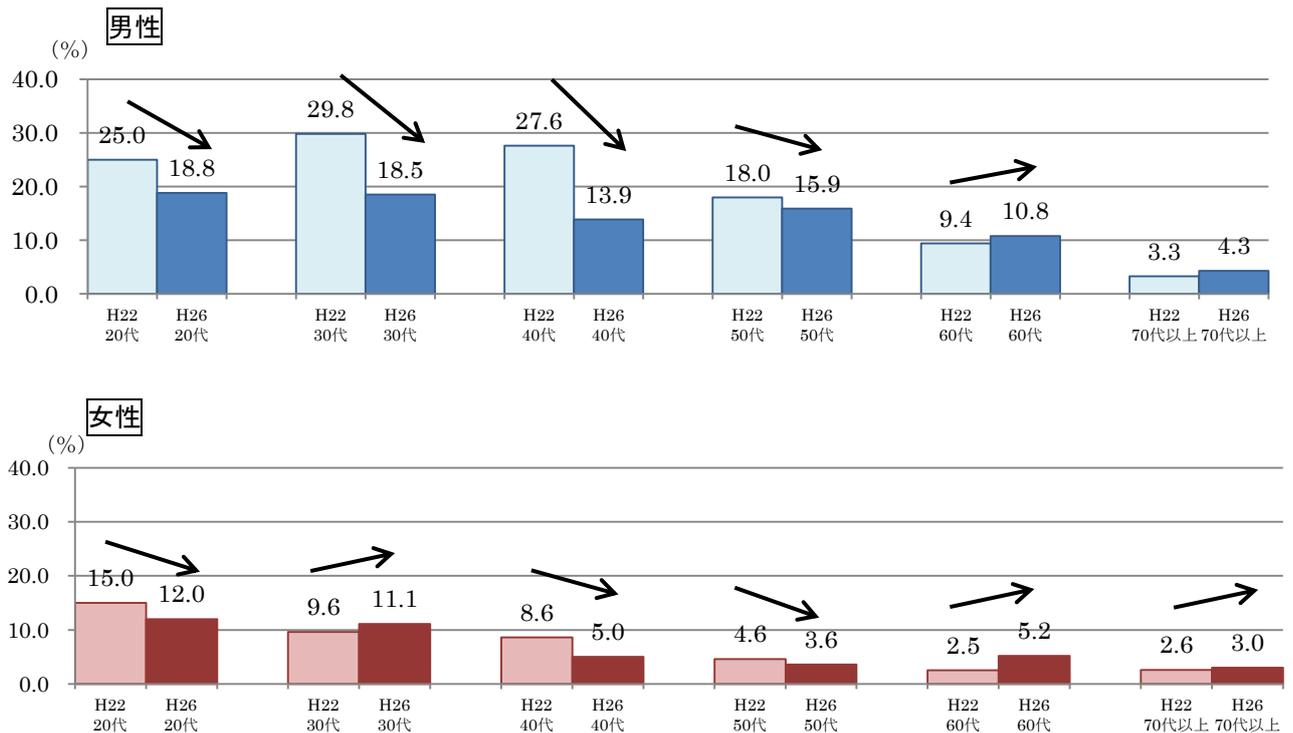


図 1 2 年代別外食利用の状況

(「毎日2回以上」「毎日1回以上」利用すると回答した者の割合)



3 栄養成分表示を参考にする者の状況

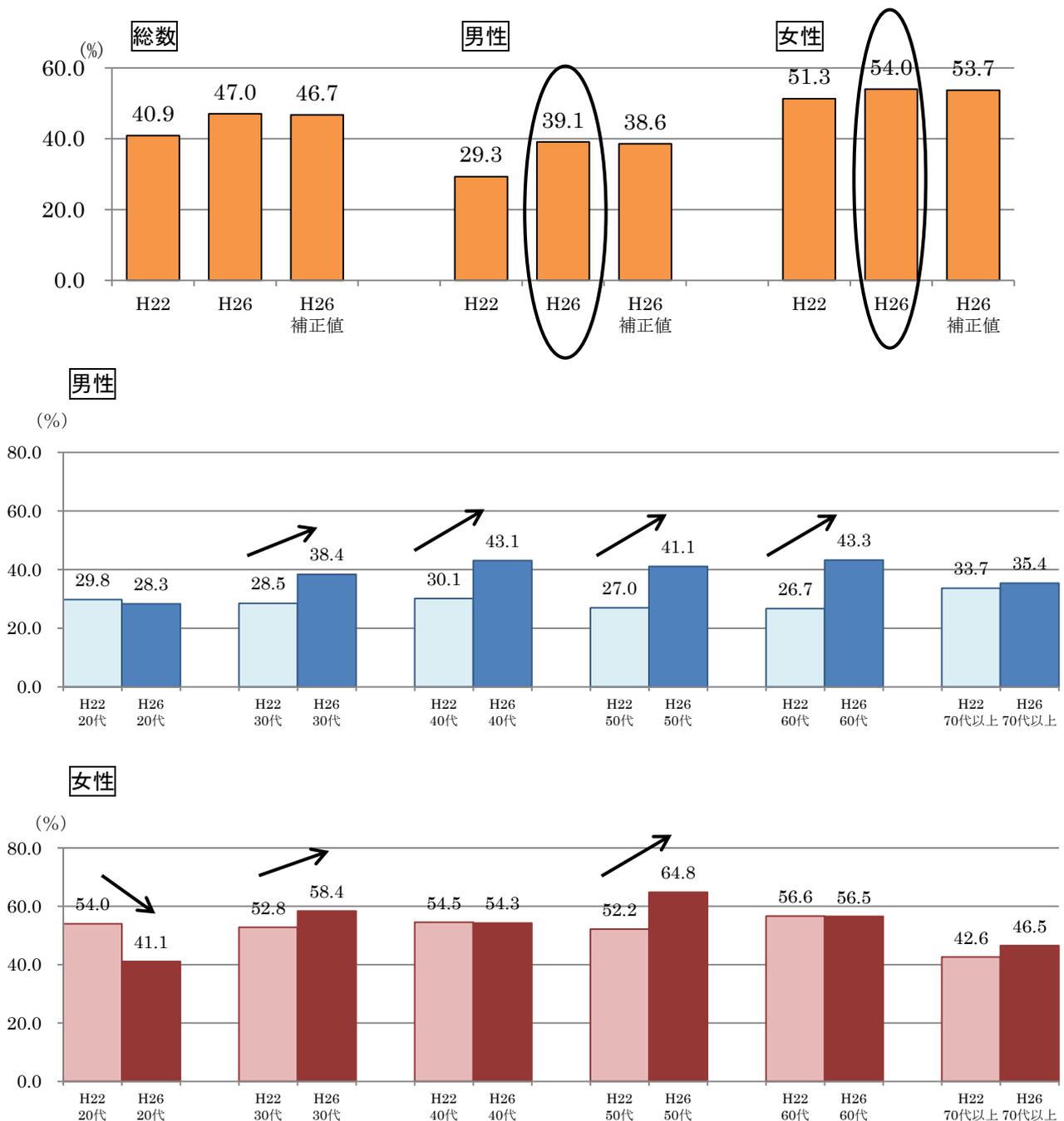
外食や食品購入の際に、栄養成分表示を「いつも」「時々」参考にしていると回答した者の割合は、男性 39.1%、女性 54.0%だった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男性は増加していたが、女性は横ばいである。

年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男性は 30 代から 60 代で、女性は 30 代、50 代で増加している一方、女性の 20 代で減少している。

図 1 3 栄養成分表示を参考にする者の状況

(「いつも」「時々」参考にしていると回答した者)



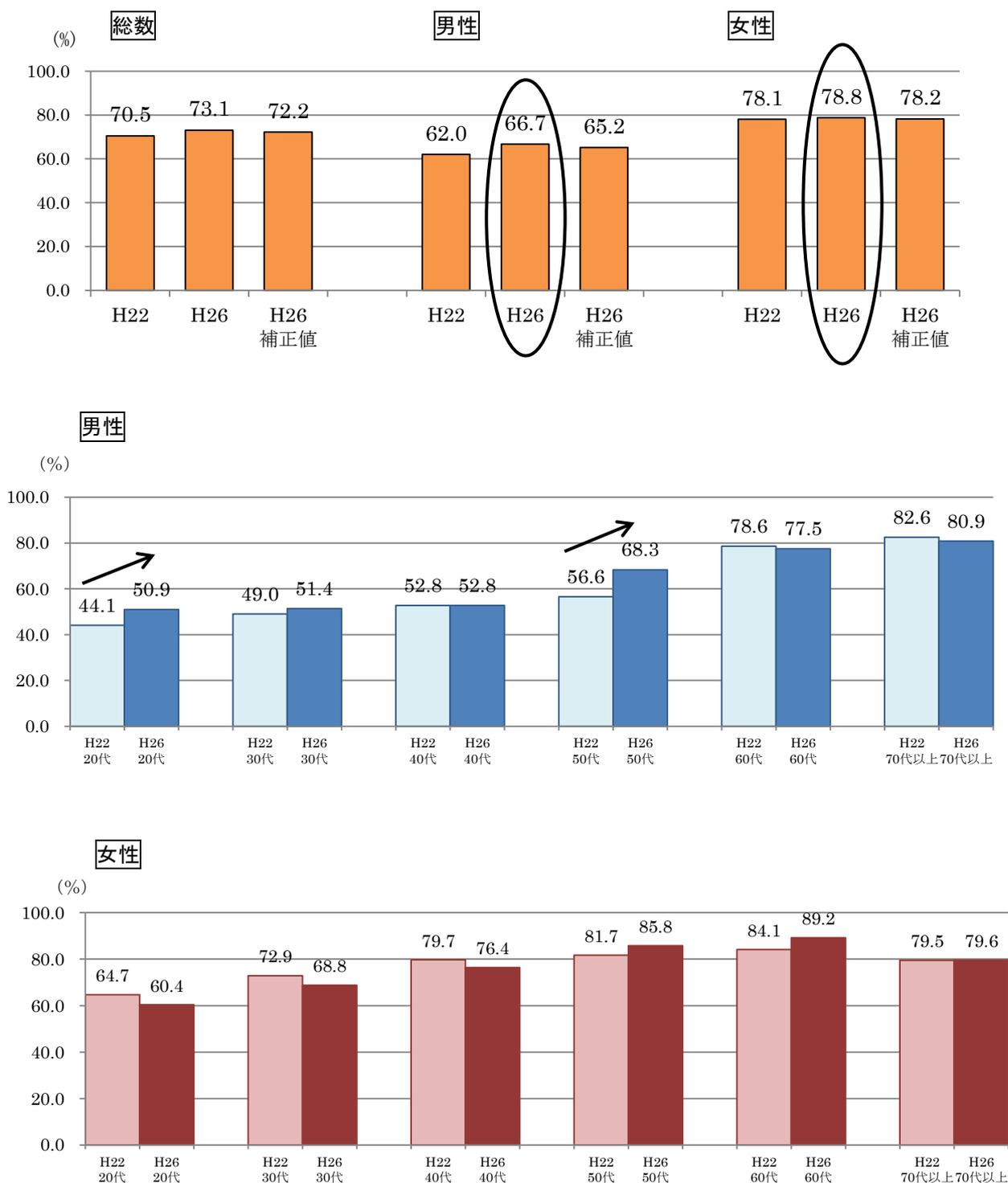
4 主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている者の状況

主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている者の割合は、男性 66.7%，女性 78.8%だった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともに横ばいである。

年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男性の 20 代、50 代で増加している。

図 1 4 主食・主菜・副菜をそろえて食べる者の状況



5 漬物の摂取頻度

最近1か月で、漬物を「毎日2回以上」「毎日1回」食べると回答した者の割合は、男性27.4%、女性30.5%だった。
 年齢階級別にみると、男女とも年代が上がるにつれて増加する傾向がみられた。

図15 漬物の摂取頻度

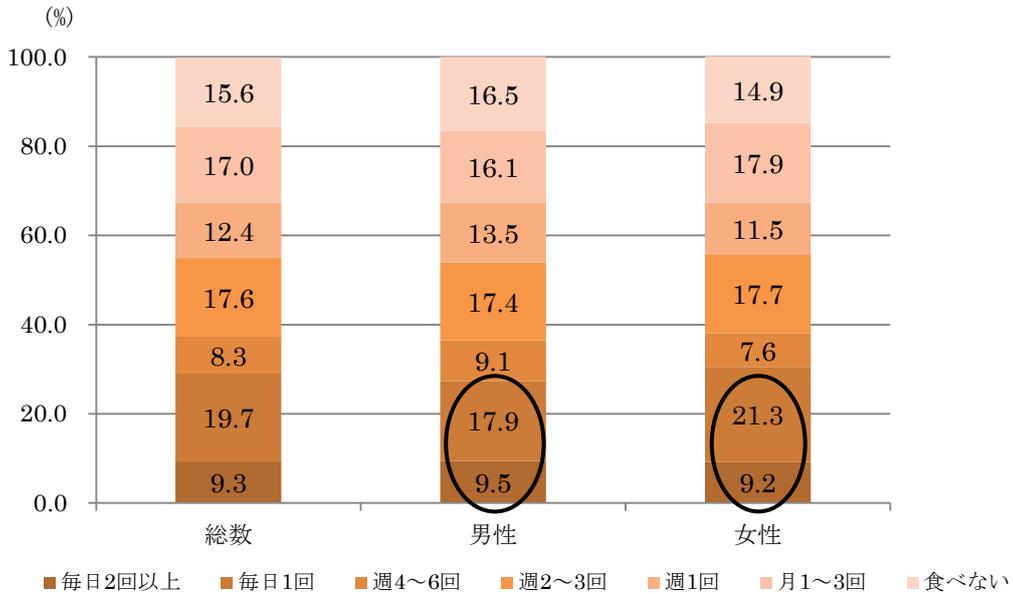
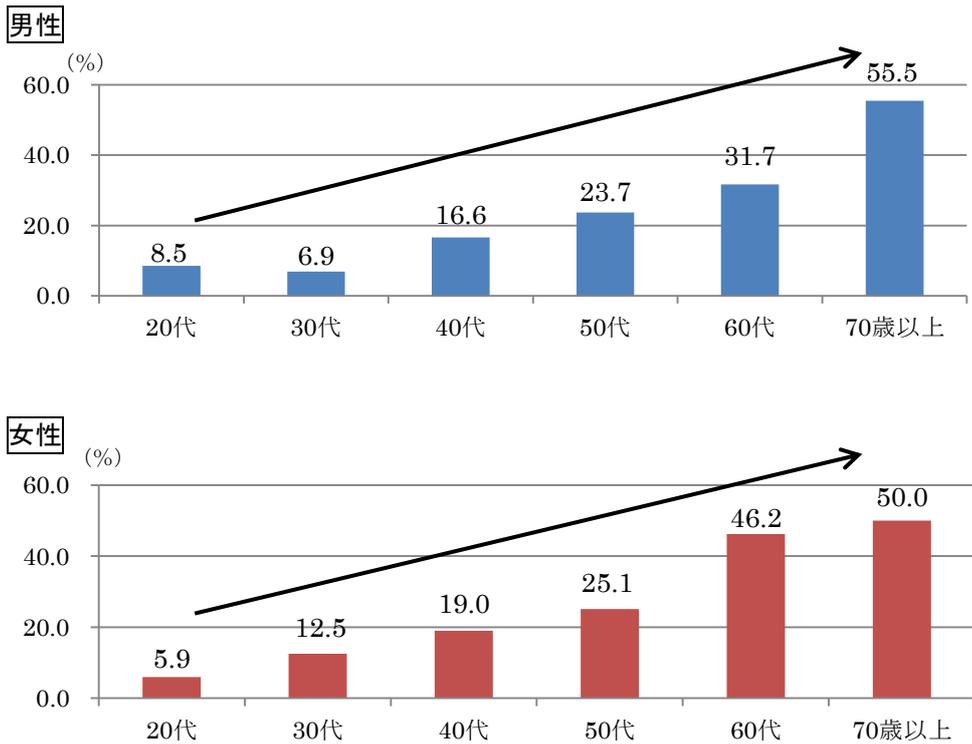


図16 年代別漬物の摂取頻度
 (「毎日2回以上」「毎日1回」食べると回答した者の割合)



6 めん類のスープや汁の摂取量

めん類のスープや汁を「8割飲む」「ほとんど全部飲む」と答えた者の割合は、男性 47.3%、女性 19.4%と女性より男性が高い。

年齢階級別にみると、男性はどの年代においても女性より高く、全ての年代で 40%を超えている。

図 17 めん類のスープや汁の摂取状況

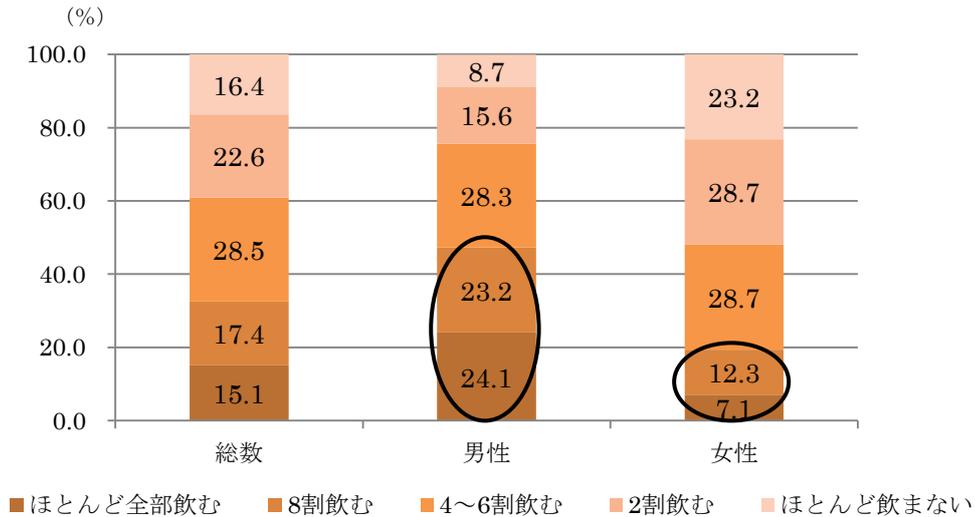
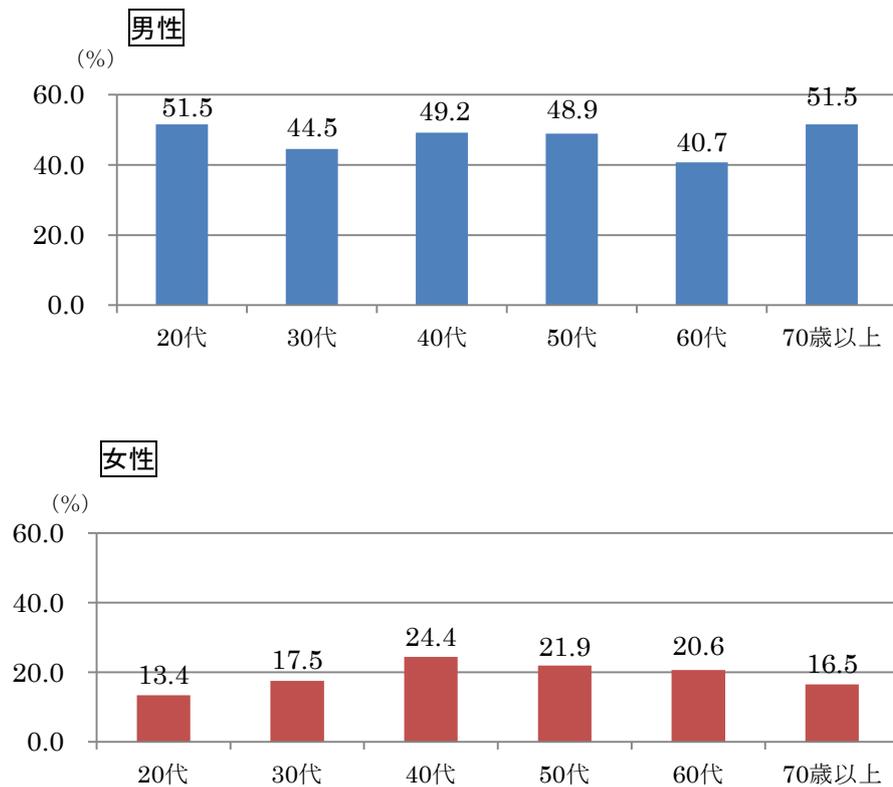


図 18 年代別めん類のスープや汁の摂取状況
 (「ほとんど全部」または「8割ぐらい」飲んでいる人の割合)

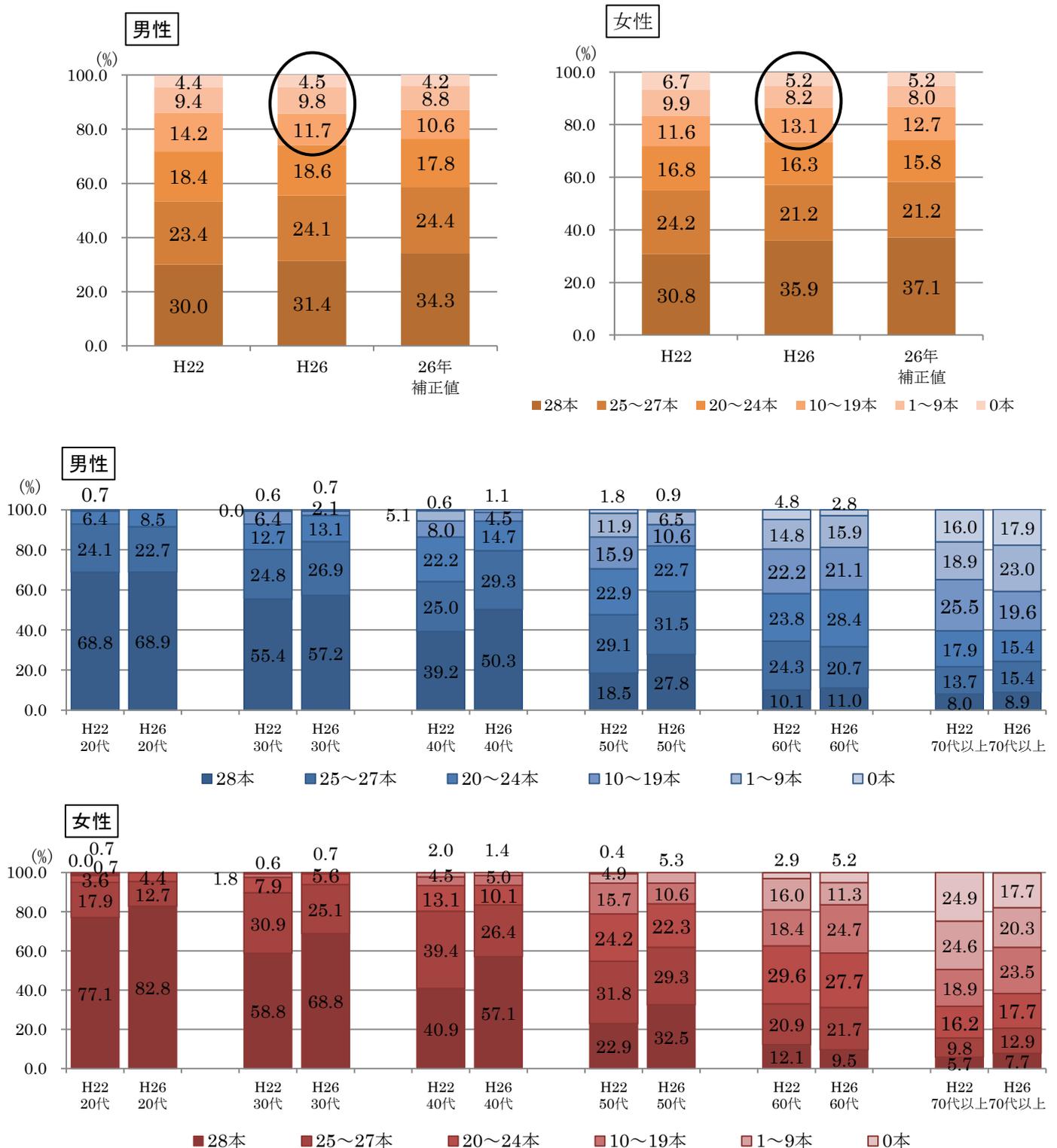


第4 歯に関する状況

1 保有歯の状況

保有歯の状況について、「20本未満」と回答した者の割合は、男性 26.0%、女性 26.5%だった。平成22年と年齢構成をそろえて比較すると、男性は減少しているが女性はほぼ横ばいである。

図19 保有歯の状況



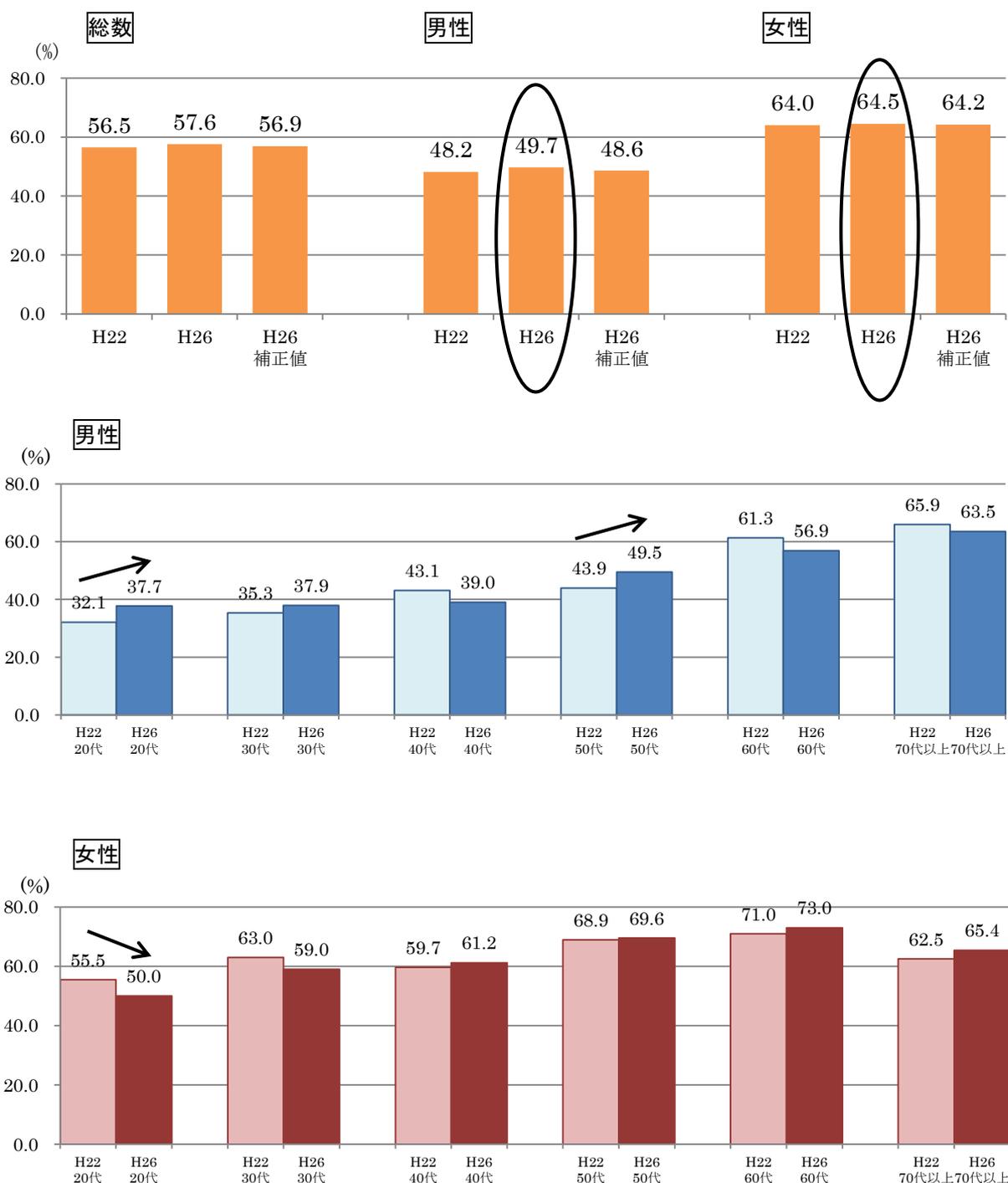
2 かかりつけ歯科医の状況

かかりつけ歯科医がいる者の割合は、男性 49.7%、女性 64.5%で、男性に比べ女性の割合が高い。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともに横ばいである。

年齢階級別では、平成 22 年と比較すると男性の 20 代、50 代で増加した一方、女性の 20 代で減少している。

図 20 かかりつけ歯科医がいる者の状況



第5 休養に関する状況

1 休養の状況

睡眠による休養が「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合は、男性 21.9%、女性 21.3%だった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男性は増加、女性は横ばいである。

年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男性は 40 代で、女性は 30 代以上で増加している一方、男性の 20 代、30 代、60 代では減少している。

図 2 1 睡眠による休養の状況

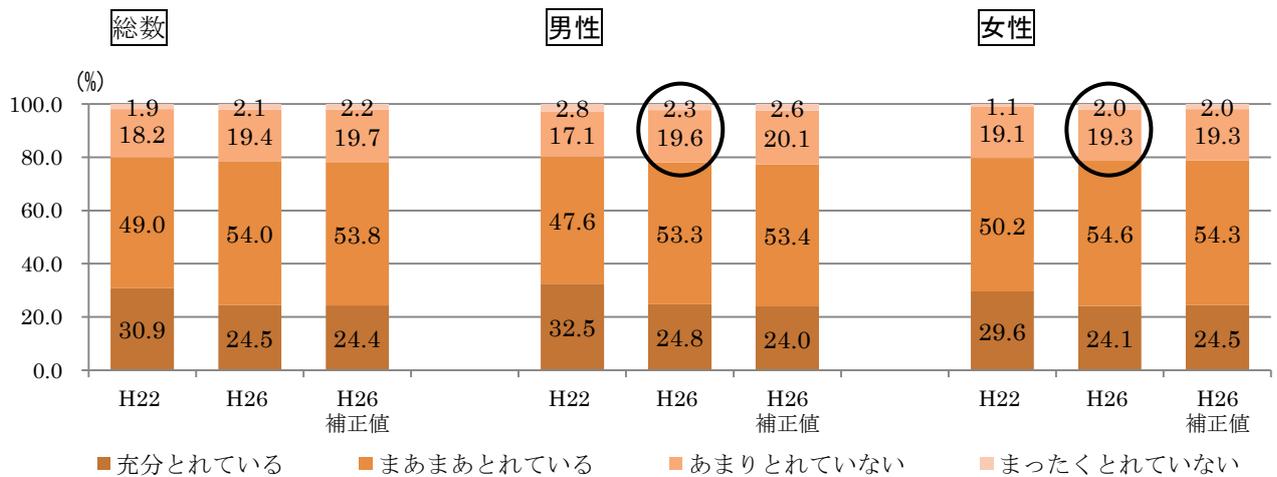
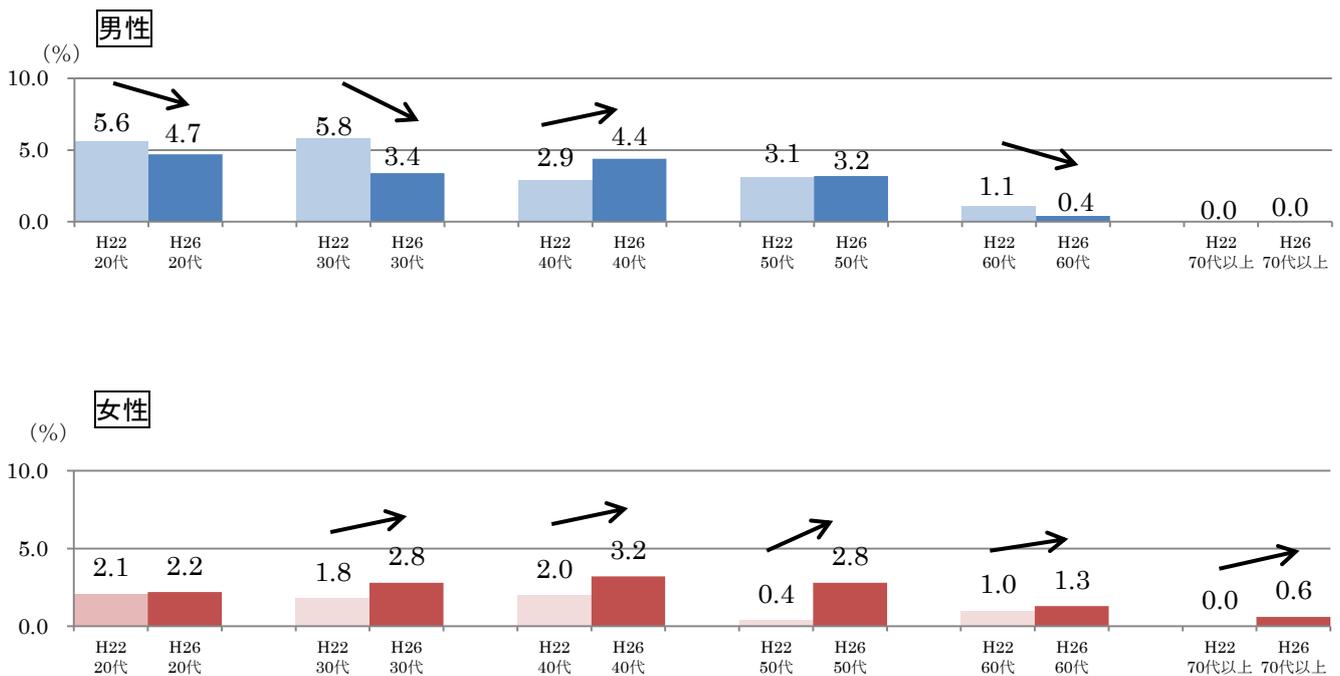


図 2 2 「まったくとれていない」と回答した者の割合



2 悩みを相談できる相手の状況

悩みなどを気軽に相談できる相手がいる者の割合は、男性 50.0%、女性 68.4%だった。
 平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男女とも減少している。
 年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男性は 20 代から 60 代で、女性は 20 代、40 代、50 代で減少している。

図 2 3 悩みを相談できる相手の状況

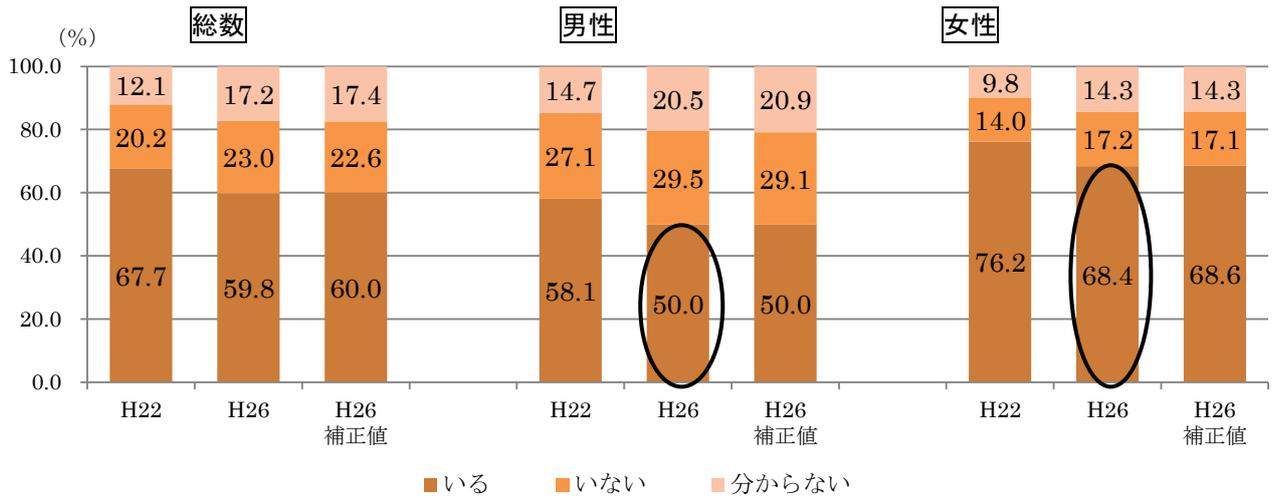
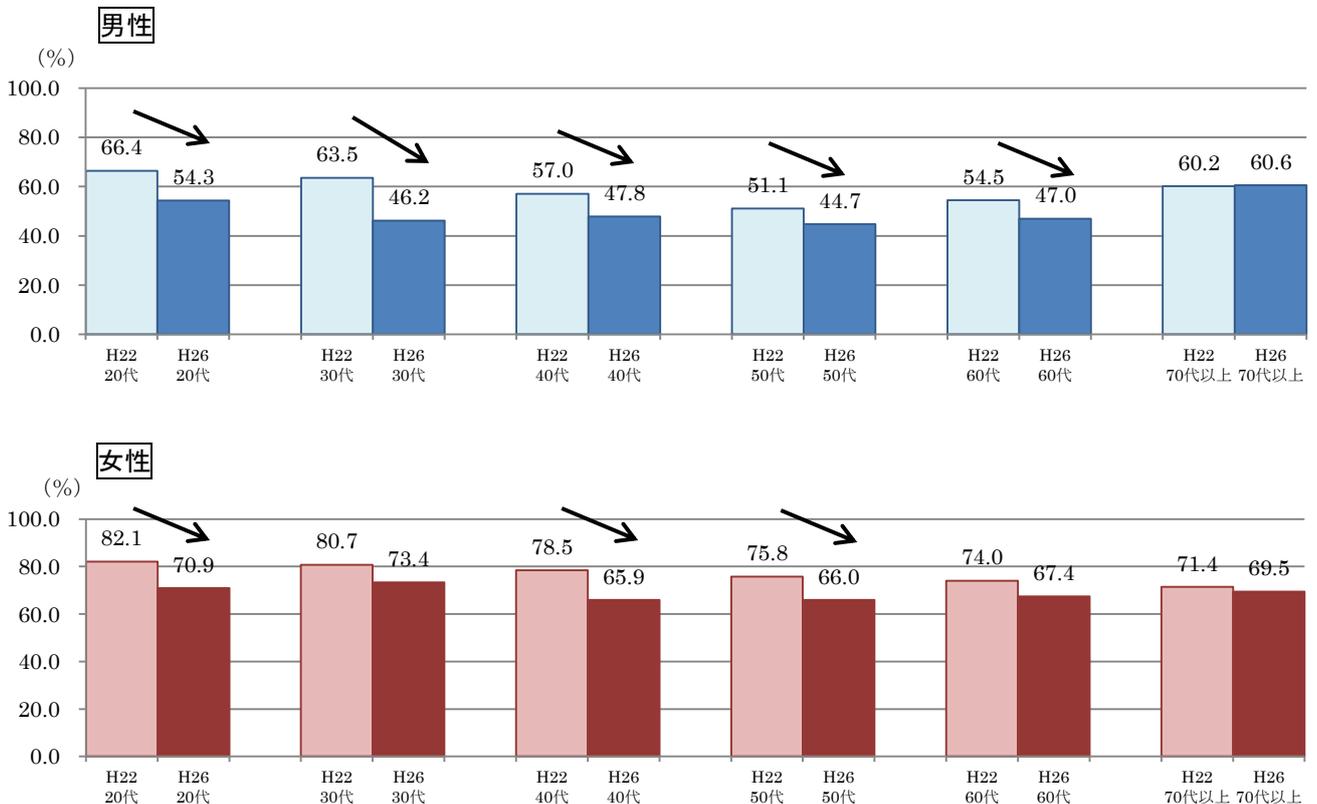


図 2 4 悩みなどを気軽に相談できる相手が「いる」と回答した者の割合



第6 飲酒に関する状況

1 飲酒習慣の状況

飲酒の習慣について、お酒を飲むと回答した者の割合は、男性 66.3%、女性 31.5%だった。そのうち、「毎日」「週5～6日」飲むと回答した者は、男性 61.6%、女性 35.4%だった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともに横ばいである。

年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男性は 40 代、60 代で、女性は 20 代、60 代以上で増加している一方、男性の 20 代、女性の 30 代、50 代で減少している。

図 2 5 飲酒習慣の状況

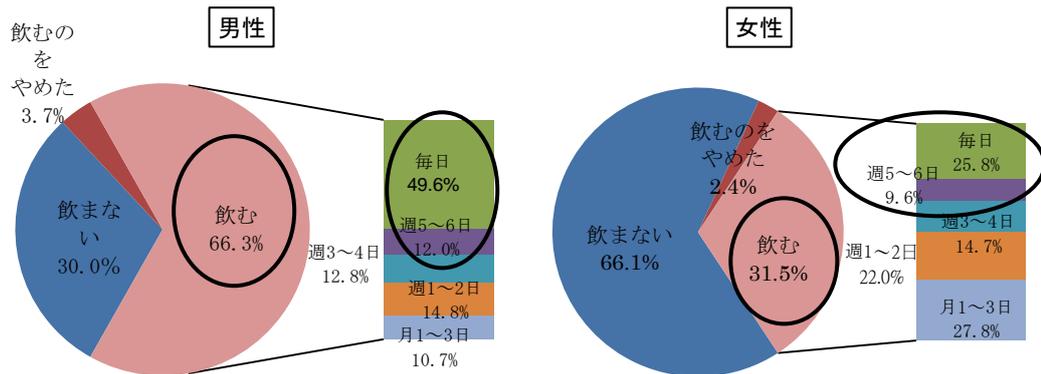
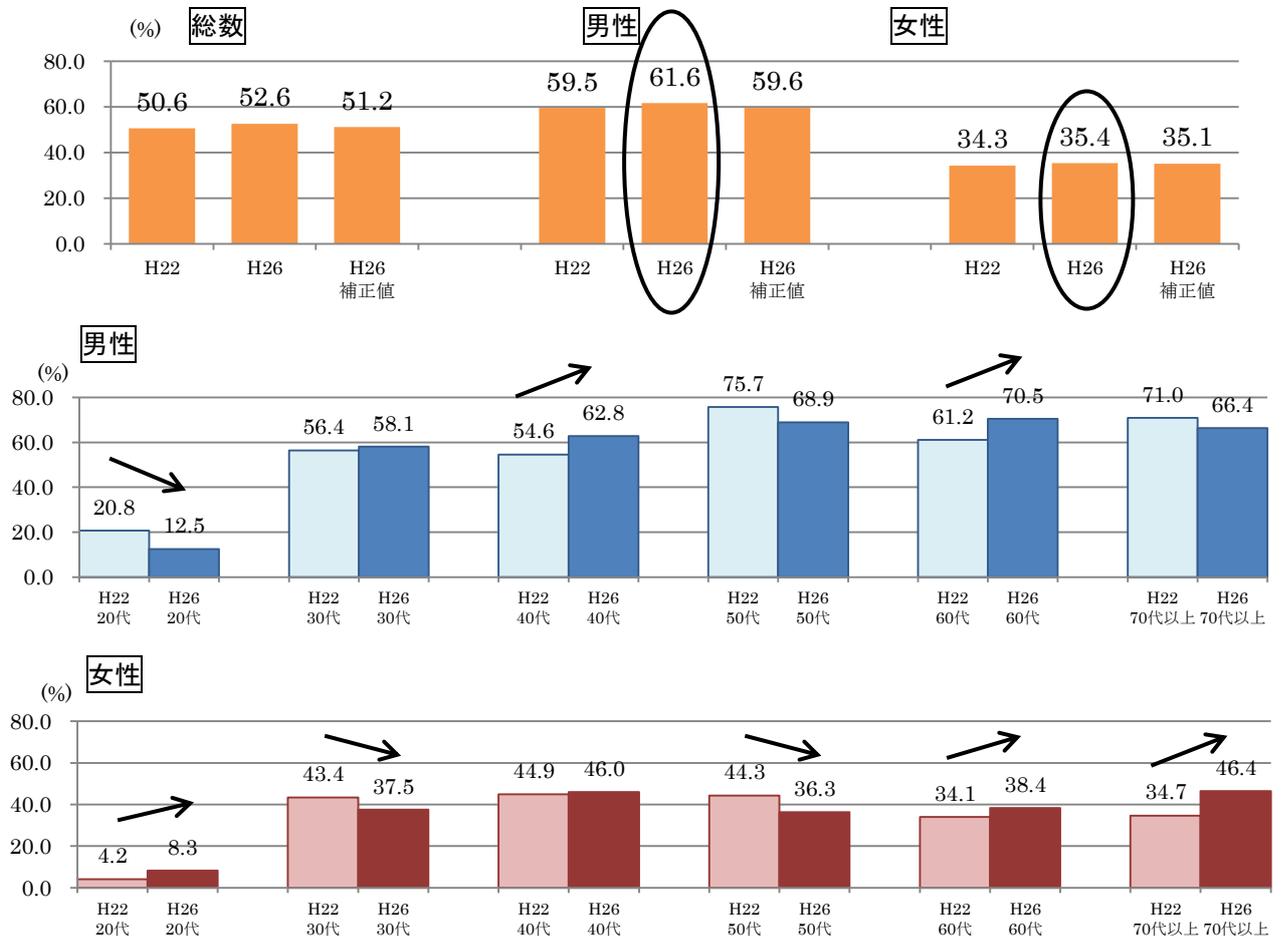


図 2 6 お酒を飲む人のうち「毎日」「週5～6日」飲酒すると回答した者の割合



第7 喫煙に関する状況

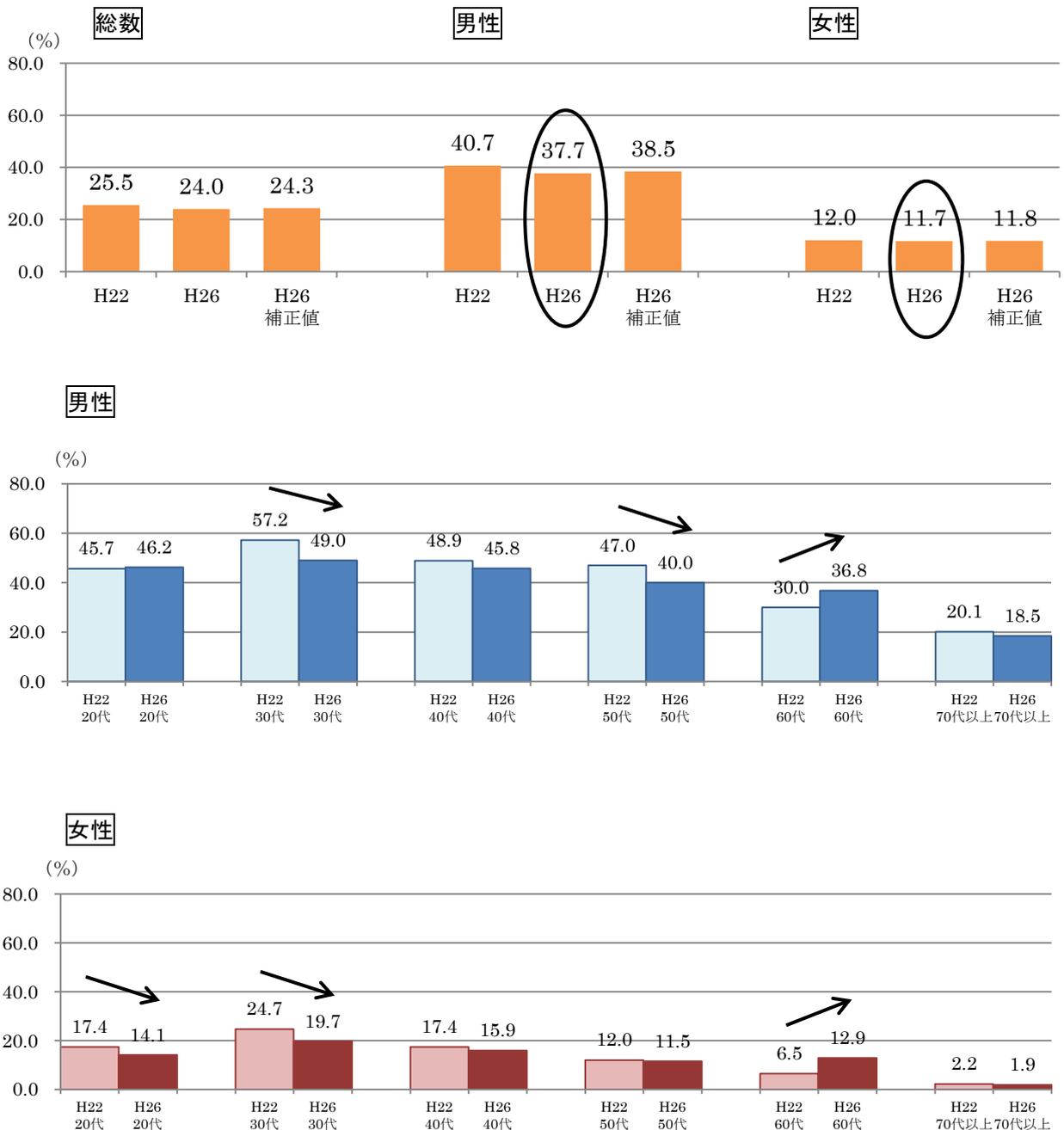
1 喫煙習慣の状況

喫煙の習慣について、「毎日吸う」「時々吸う」と回答した者の割合は、男性 37.7%、女性 11.7%だった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともに横ばいである。

年齢階級別では、平成 22 年と比較すると、男女とも 60 代で増加している一方、男性の 30 代、50 代、女性の 20 代、30 代で減少している。

図 27 「毎日吸う」「時々吸う」と回答した者の割合



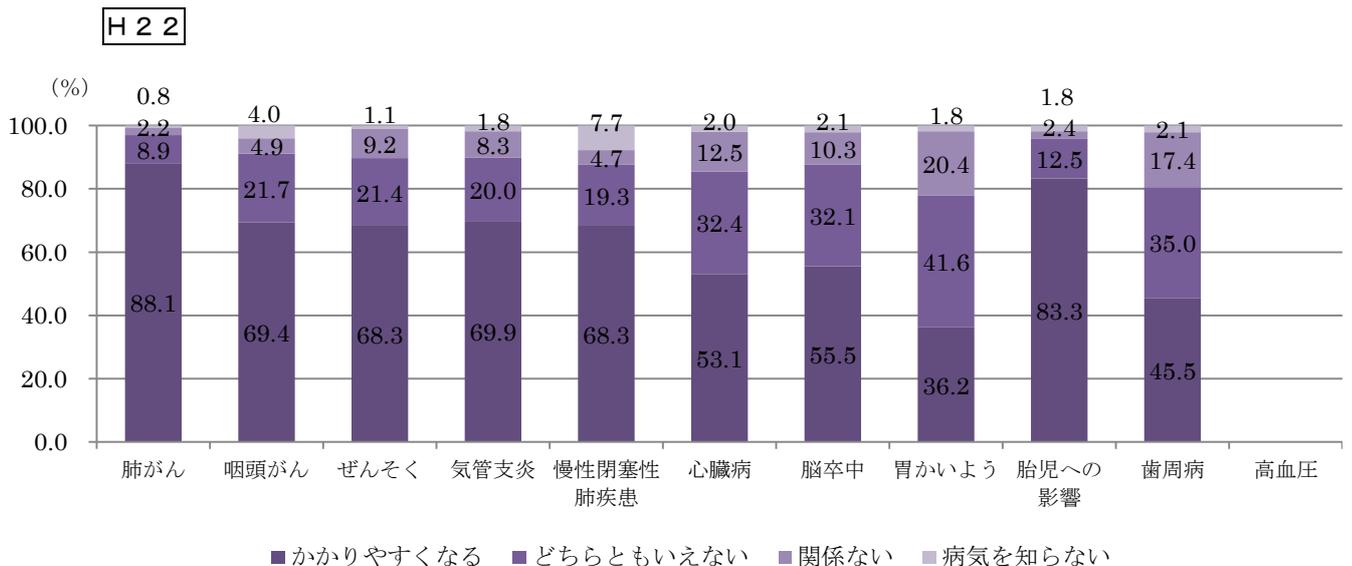
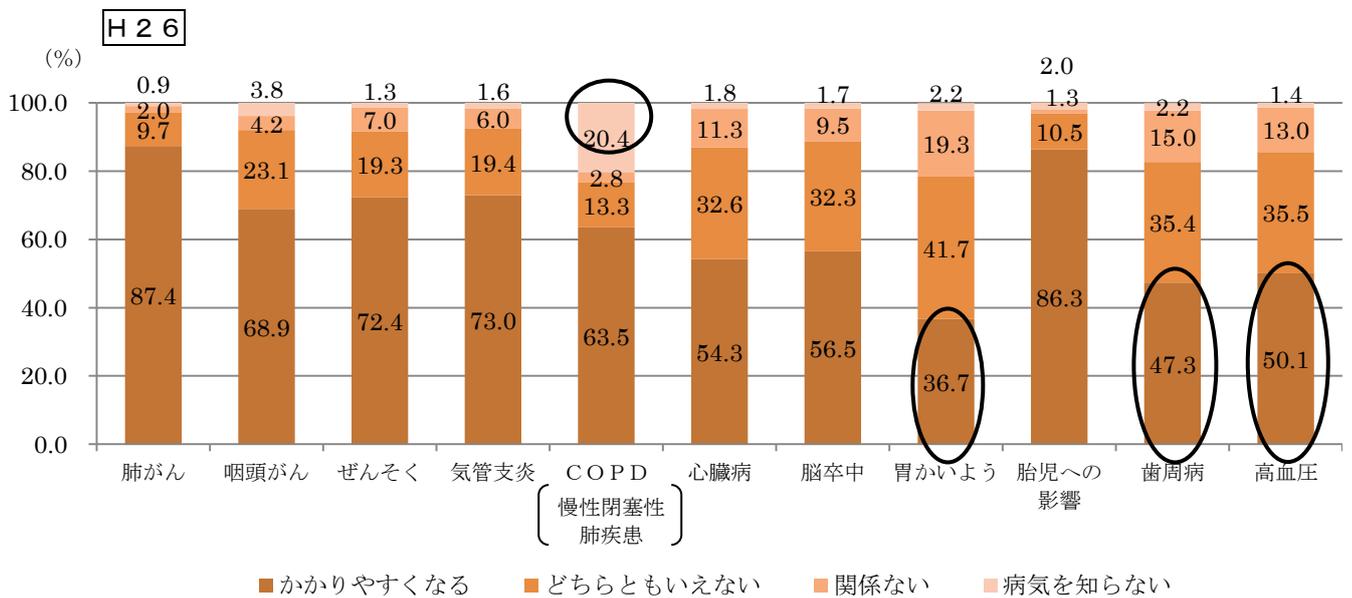
2 たばこが健康に与える影響の認知状況

たばこが健康に与える影響の認知状況について、「肺がん」87.4%、「胎児への影響」86.3%と認知度が高い一方、「胃かいよう」は36.7%、「歯周病」は47.3%と認知度が低い。

COPDについては、「病気を知らない」と回答した者の割合が、他の項目と比べ最も多く、病名が認知されていない可能性がある。

なお、喫煙で血圧が一時的に上がるものの、一般的には、たばこは高血圧の原因とはみなされていませんが、高血圧にかかりやすくなると回答した者の割合は50.1%だった。

図28 たばこが健康に与える影響の認知状況



*平成22年県民健康・栄養調査では、高血圧については未実施

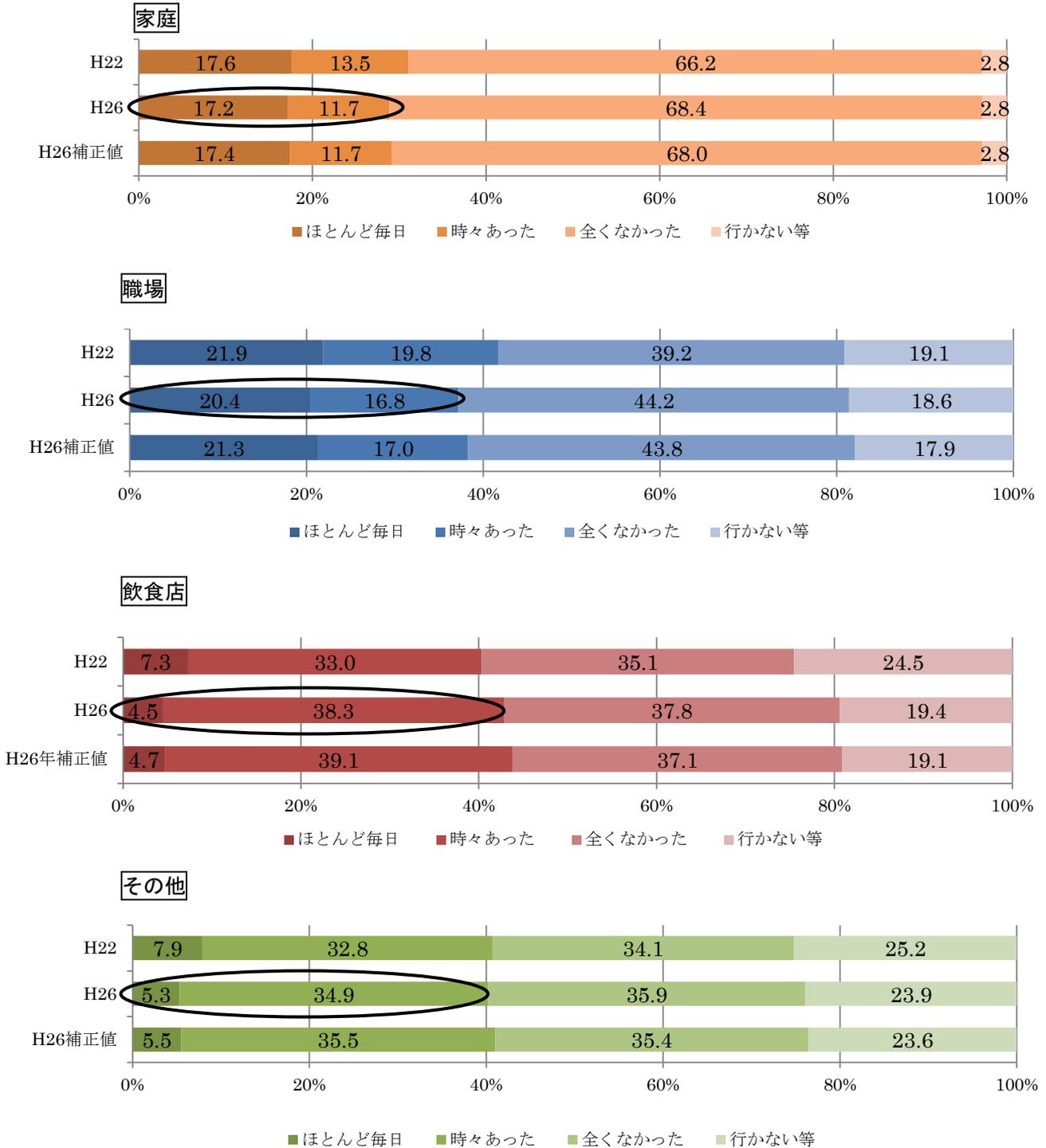
*病名のうちCOPDについては、平成26年県民健康・栄養調査では慢性閉塞性肺疾患と注釈を付けた

3 受動喫煙の状況

受動喫煙の機会について、「ほとんど毎日」「時々あった」と回答した者の割合は、家庭 28.9%、職場 37.2%、飲食店 42.8%、その他 40.2%であった。

平成 22 年と年齢構成をそろえて比較すると、家庭、職場、飲食店及びその他のすべての場所におい横ばいである。

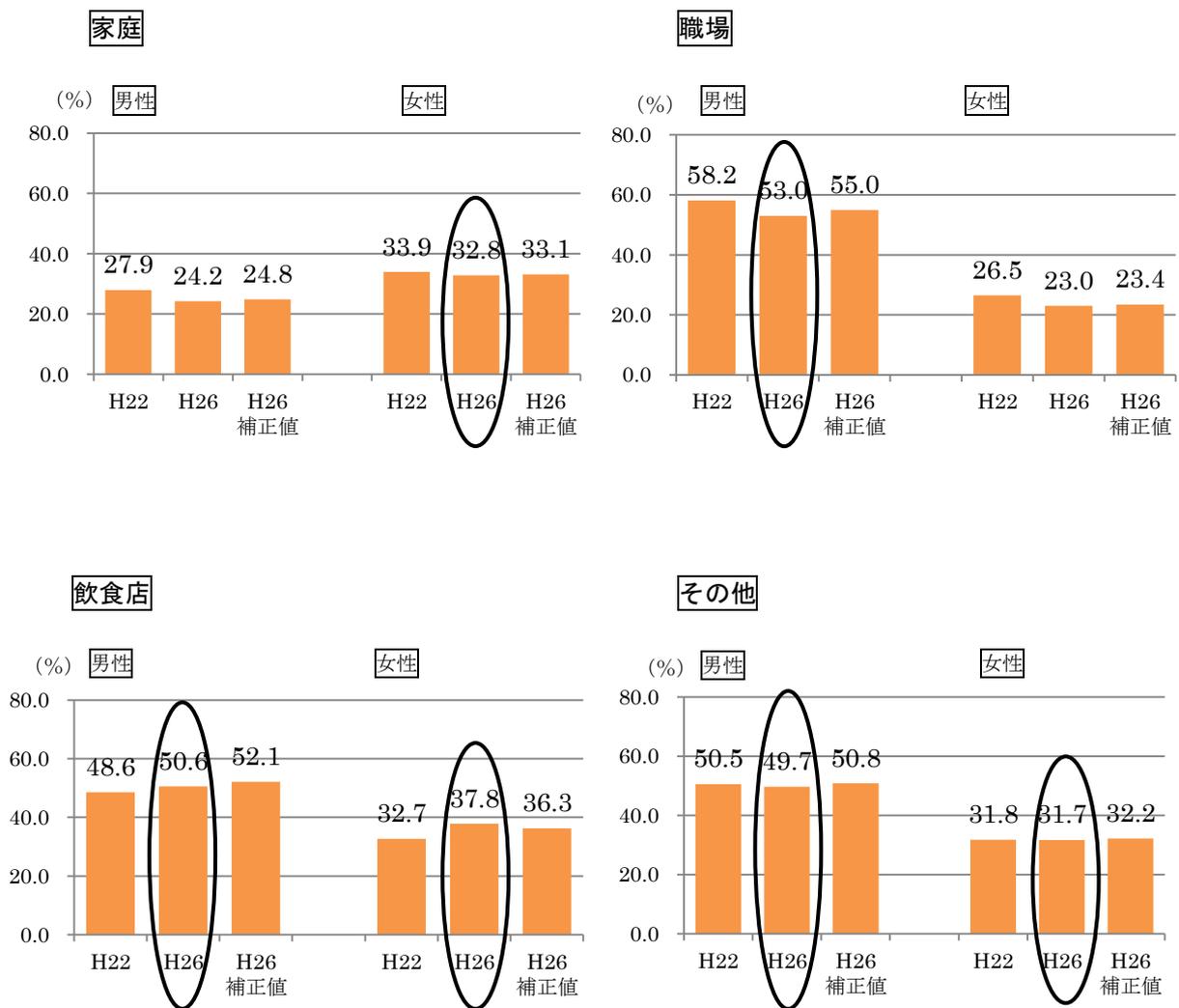
図 29 受動喫煙の状況



*H26 調査：「時々あった」とは、「週に数回程度」、「週に 1 回程度」、「月に 1 回程度」と回答した者

受動喫煙の機会が「ほとんど毎日」「時々あった」と回答した者の割合を男女別で見ると、男性は、職場 53.0%、飲食店 50.6%、その他 49.7%、女性は家庭 32.8%、飲食店 37.8%、その他 31.7%であった。

図30 受動喫煙の機会が「ほとんど毎日」「時々あった」と回答した者の割合



*H26 調査：「時々あった」とは、「週に数回程度」、「週に1回程度」、「月に1回程度」と回答した者

第8 医療等の受診等に関する状況

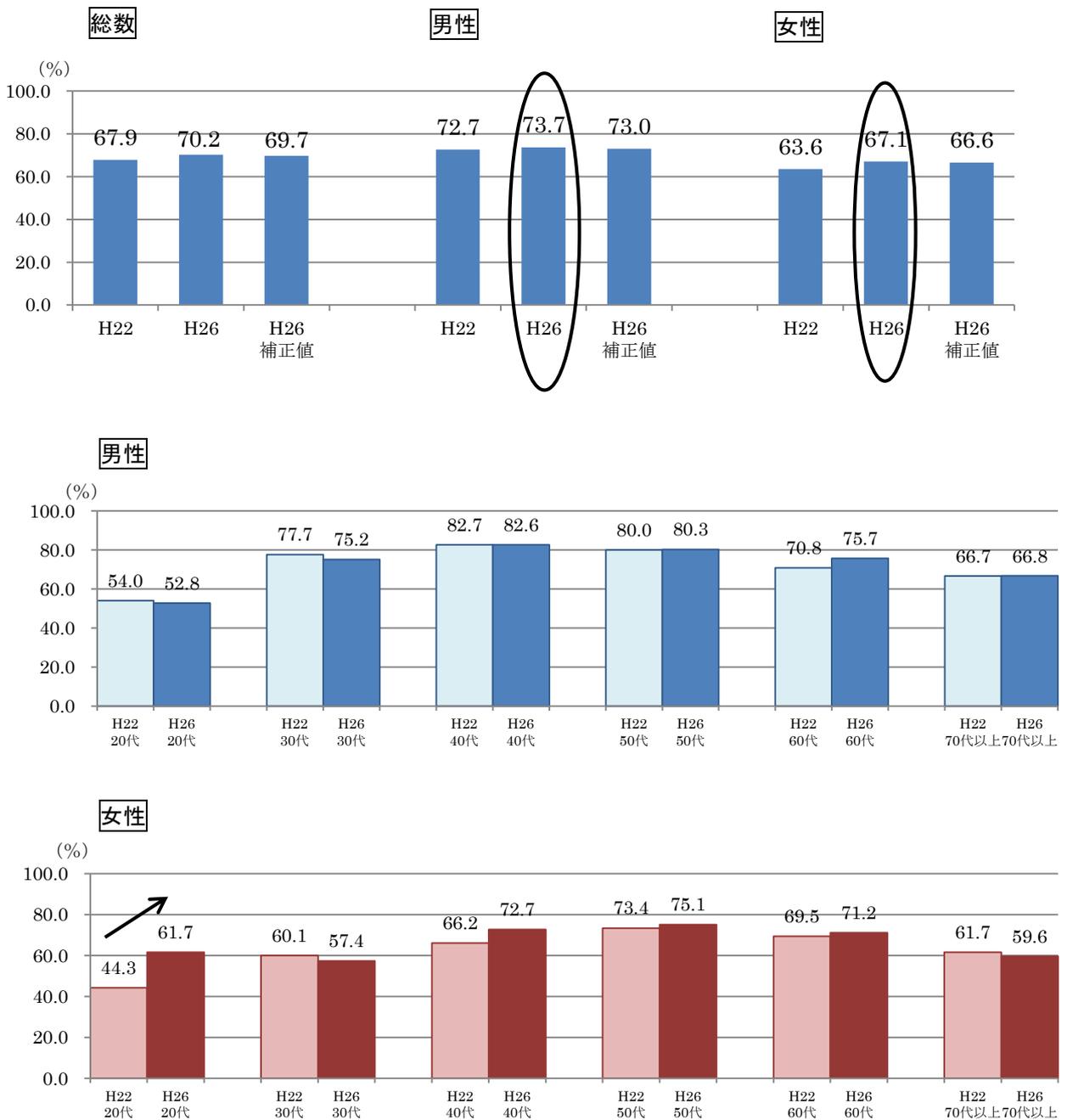
1 健診の受診状況

過去1年間に健診や人間ドックを受けたことのある者の割合は、男性73.7%、女性67.1%だった。

平成22年と年齢構成をそろえて比較すると、男女ともにほぼ横ばいである。

年齢階級別では、平成22年と比較すると、女性の20代で増加している。

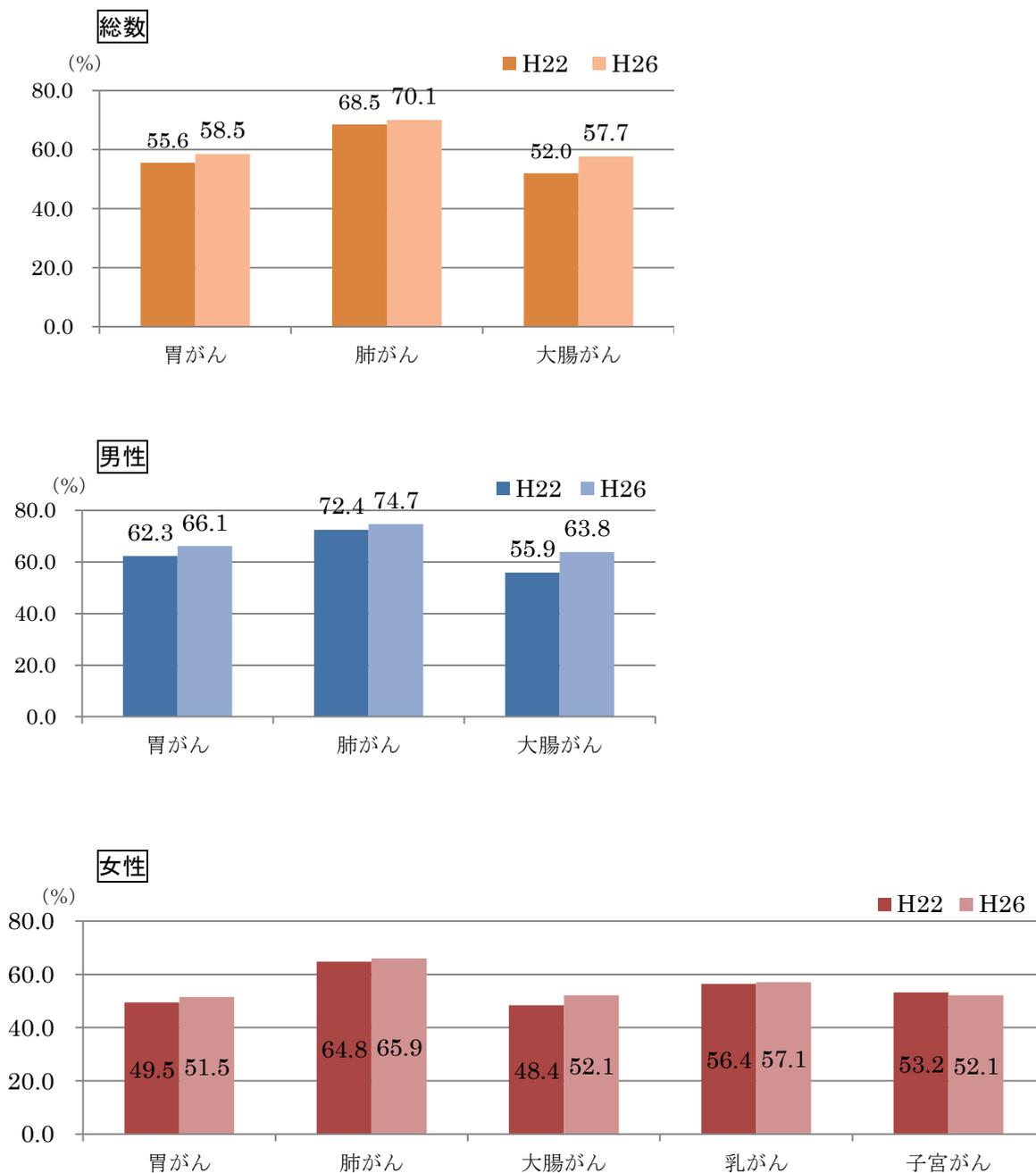
図31 健診を受けたことがある者の割合



2 がん検診の受診状況

がん検診の受診率は、平成 22 年と比較すると、女性の子宮がん検診がやや減少しているが、他の検診については増加している。

図 3 2 がん検診の受診率



*受診率算定対象年齢：40歳から69歳まで。ただし、子宮がんは20歳から69歳まで。
(高齢化の影響を除いて検診の効果を測定するため。)

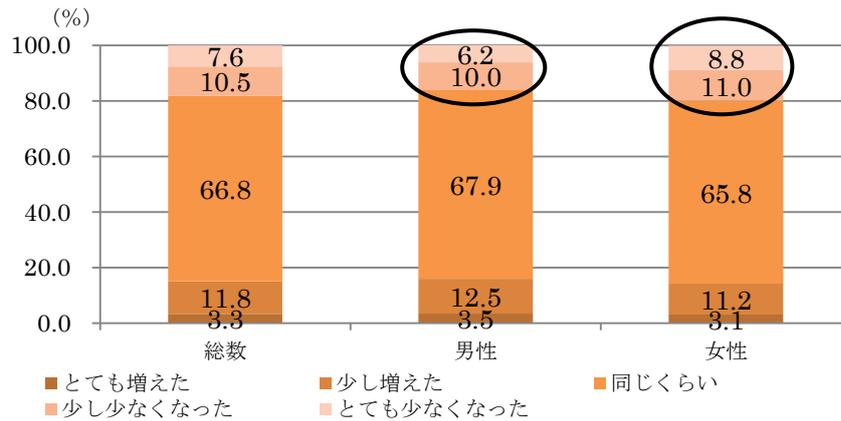
第9 震災による影響に関する状況

平成23年3月に発生した東日本大震災により、県民の生活環境、経済基盤などに様々な変化が生じており、震災による健康への影響について、調査を実施したものである。

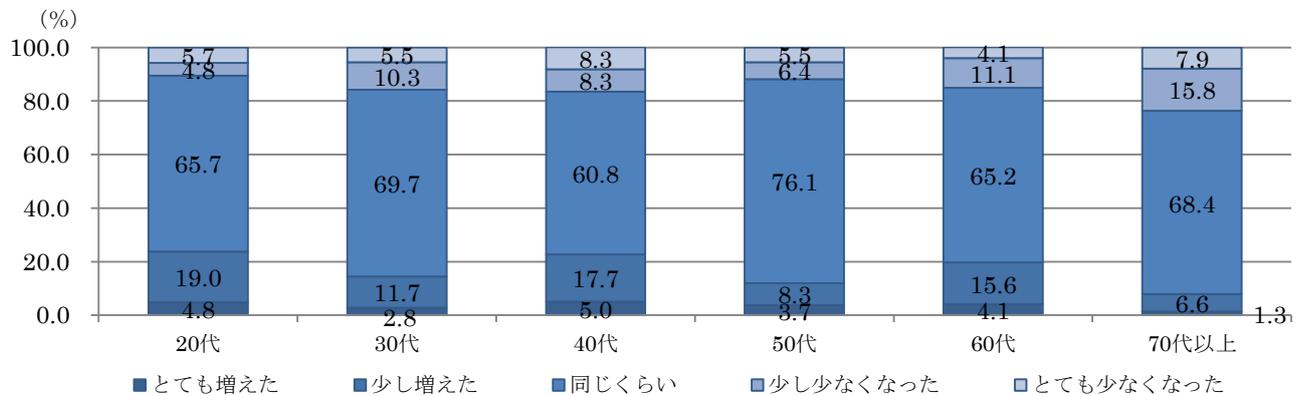
1 震災後の運動機会の状況

震災前と比較して、身体を動かす機会が「少し少なくなった」「とても少なくなった」と回答した者の割合は、男性16.2%、女性19.8%であった。

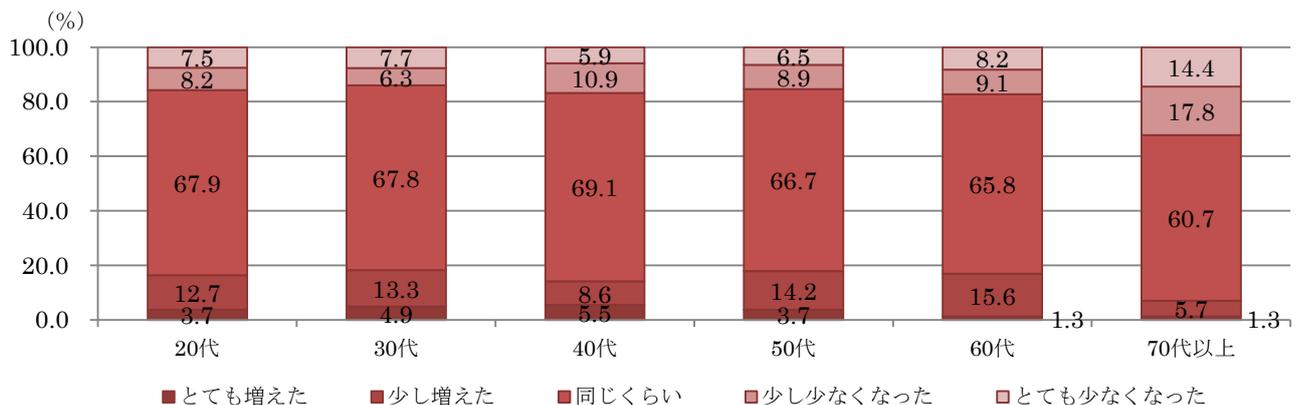
図33 震災による運動機会の状況



男性



女性

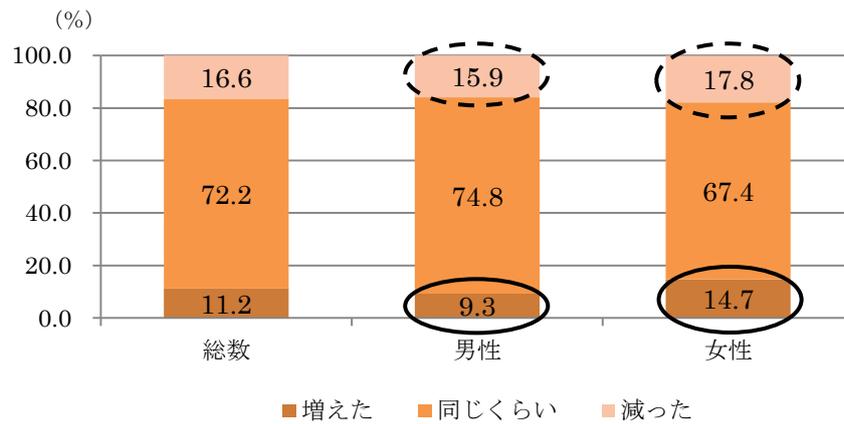


2 震災後の飲酒の状況

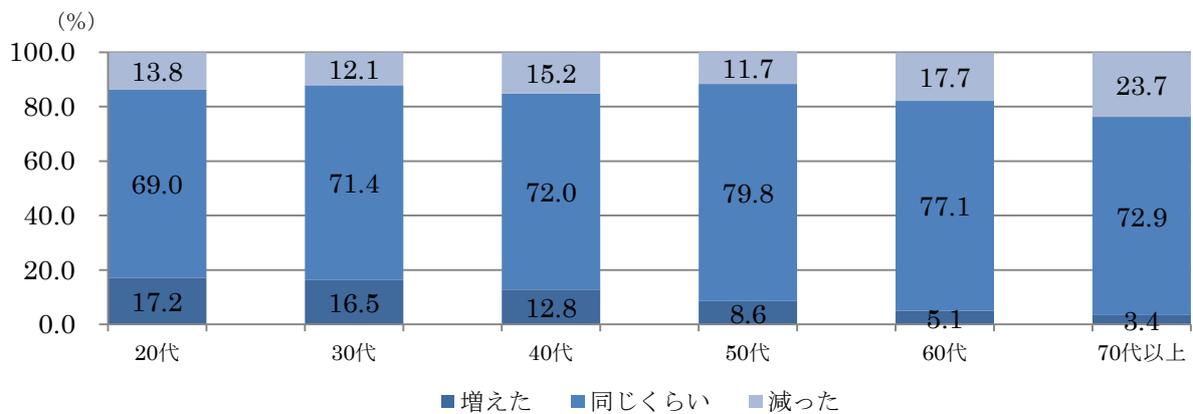
震災前と比較して、飲酒量が増えた者の割合は、男性 9.3%、女性 14.7%、反対に飲酒量が減った者の割合は、男性 15.9%、女性 17.8%であり、男女ともに飲酒量が減った者の割合が多い。

*月 1 回以上飲酒があると回答した人のみ

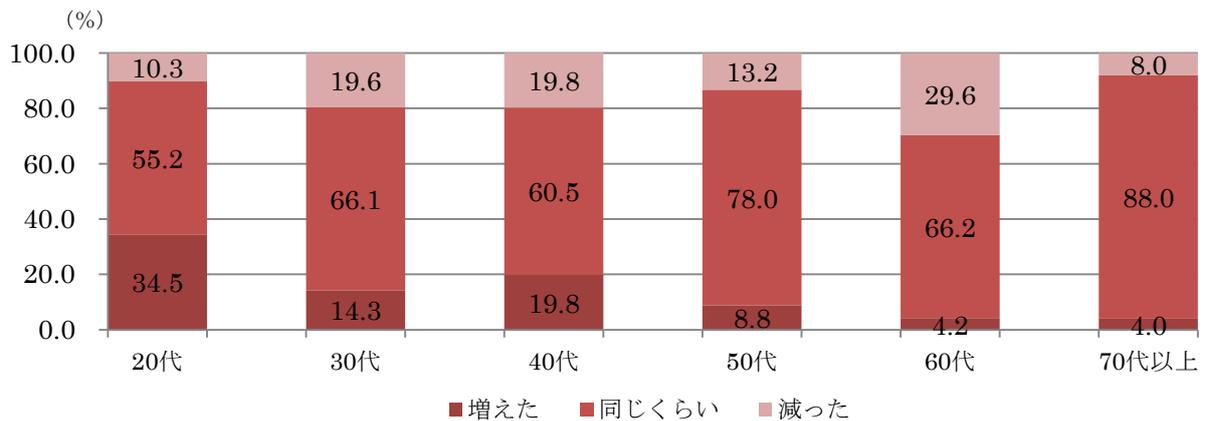
図 3 4 震災による飲酒の状況



男性



女性

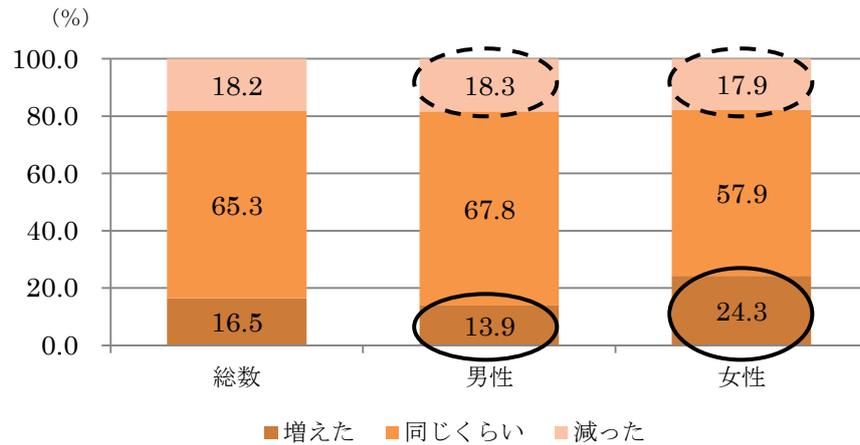


3 震災後の喫煙の状況

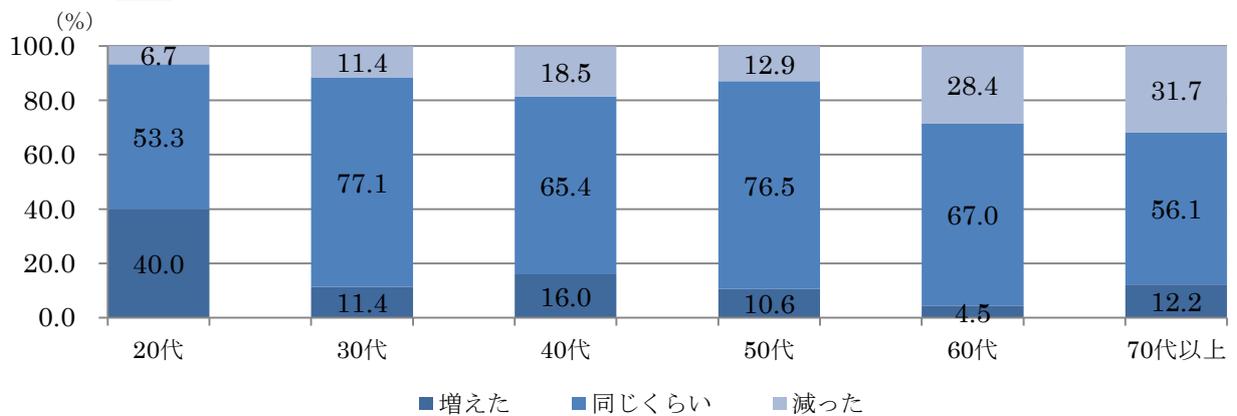
震災前と比較して、喫煙者のたばこを吸う本数が増えた者の割合は、男性 13.9%、女性 24.3%、反対に減ったという者の割合は、男性 18.3%、女性 17.9%と、男性はたばこを吸う本数が減った者の割合が高く、女性は増えた者の割合が高い。

* 「毎日吸う」「時々吸っている」と回答した人のみ

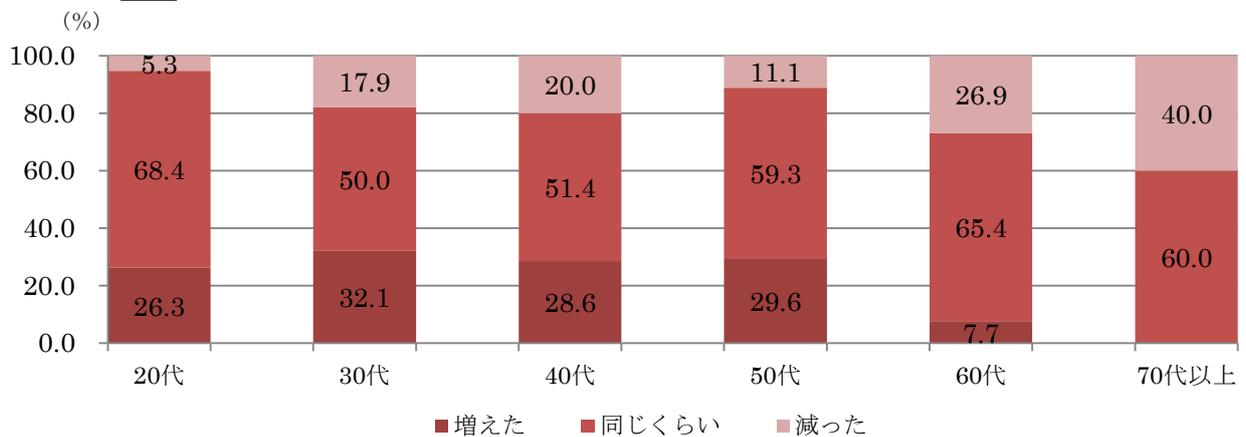
図 3 5 震災による喫煙の状況



男性



女性



第10 地区別の状況

これまでの県民健康調査は、県全体での分析のみであったが、地域格差を踏まえ、今後の健康づくり事業を推進していく必要があることから、地区単位での分析ができるよう調査対象地区を抽出し調査を行った。

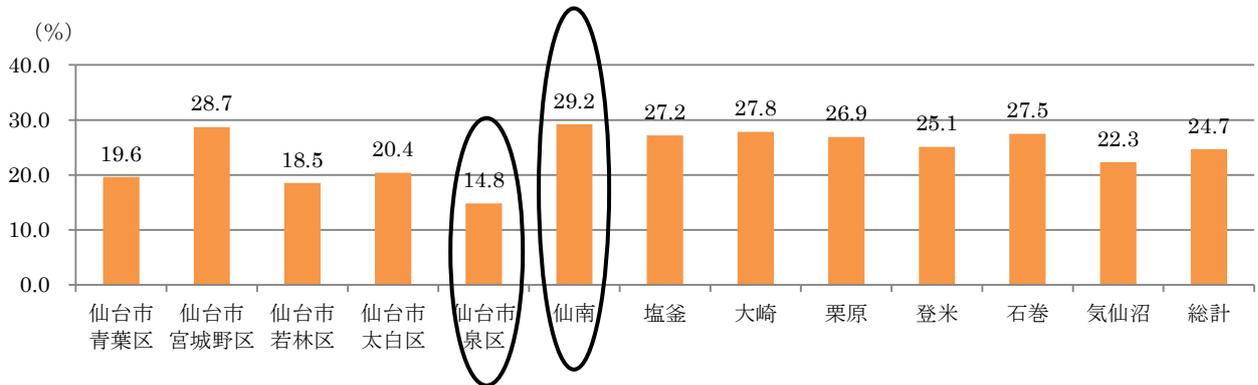
*地区別の調査結果の補正について

- ・平成26年県民健康調査の協力者全体の年齢構成に合わせ補正を行った。
- 以下、地区別状況の調査結果は、この補正した値を使用した。

1 肥満の状況

地区別の肥満者（BMI 25 以上）の割合は、仙南地区が 29.2%と最も高く、仙台市泉区が 14.8%と最も低くなっている。

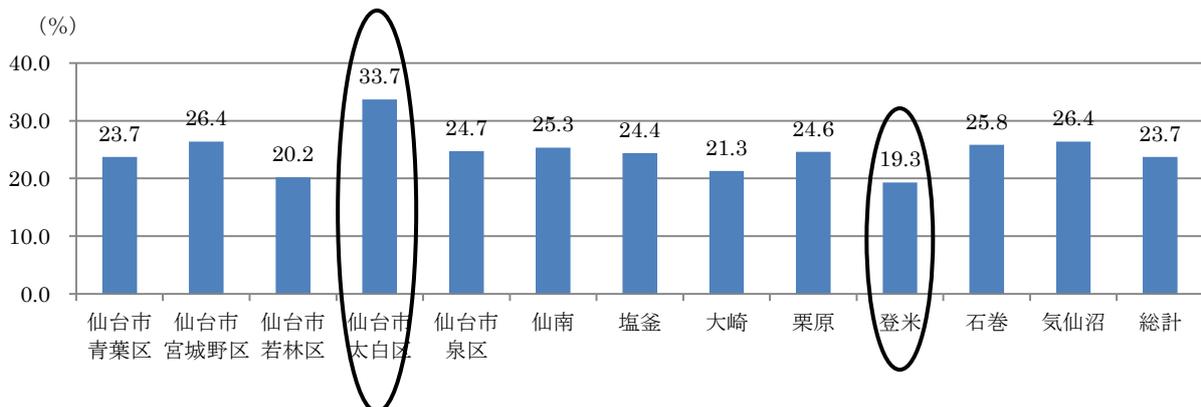
図36 肥満者（BMI ≥ 25）の割合



2 自分の健康状態に関する健康観の状況

地区別に健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した者の割合は、仙台市太白区で 33.7%と最も高く、登米地区が 19.3%と最も低くなっている。

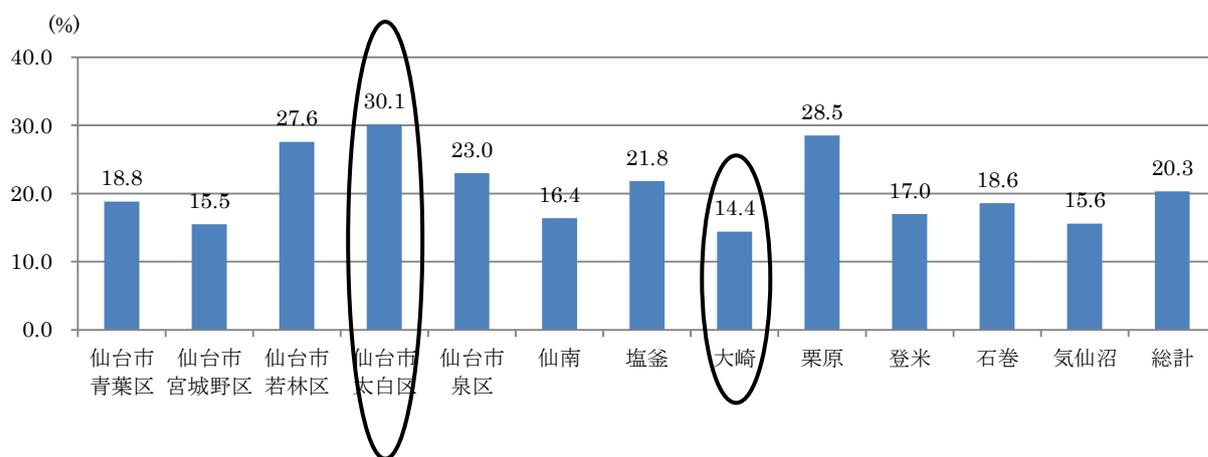
図37 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した人の割合



3 運動習慣の状況

運動習慣のある者の割合は、仙台市太白区で30.1%と最も高く、大崎地区で14.4%と最も低い。

図38 運動習慣有りの状況



「運動習慣」の集計方法は、下記のとおり平成25年国民健康・栄養調査に準じて行った。

*** 運動習慣に関する母数について**

医師等から運動を禁止されていない（問23で2と回答）と回答し、かつ1週間の運動日数、平均運動時間、継続年数（問24、問25、問26、問28）のすべてに回答している者について集計。

*** 運動習慣有（1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者）について**

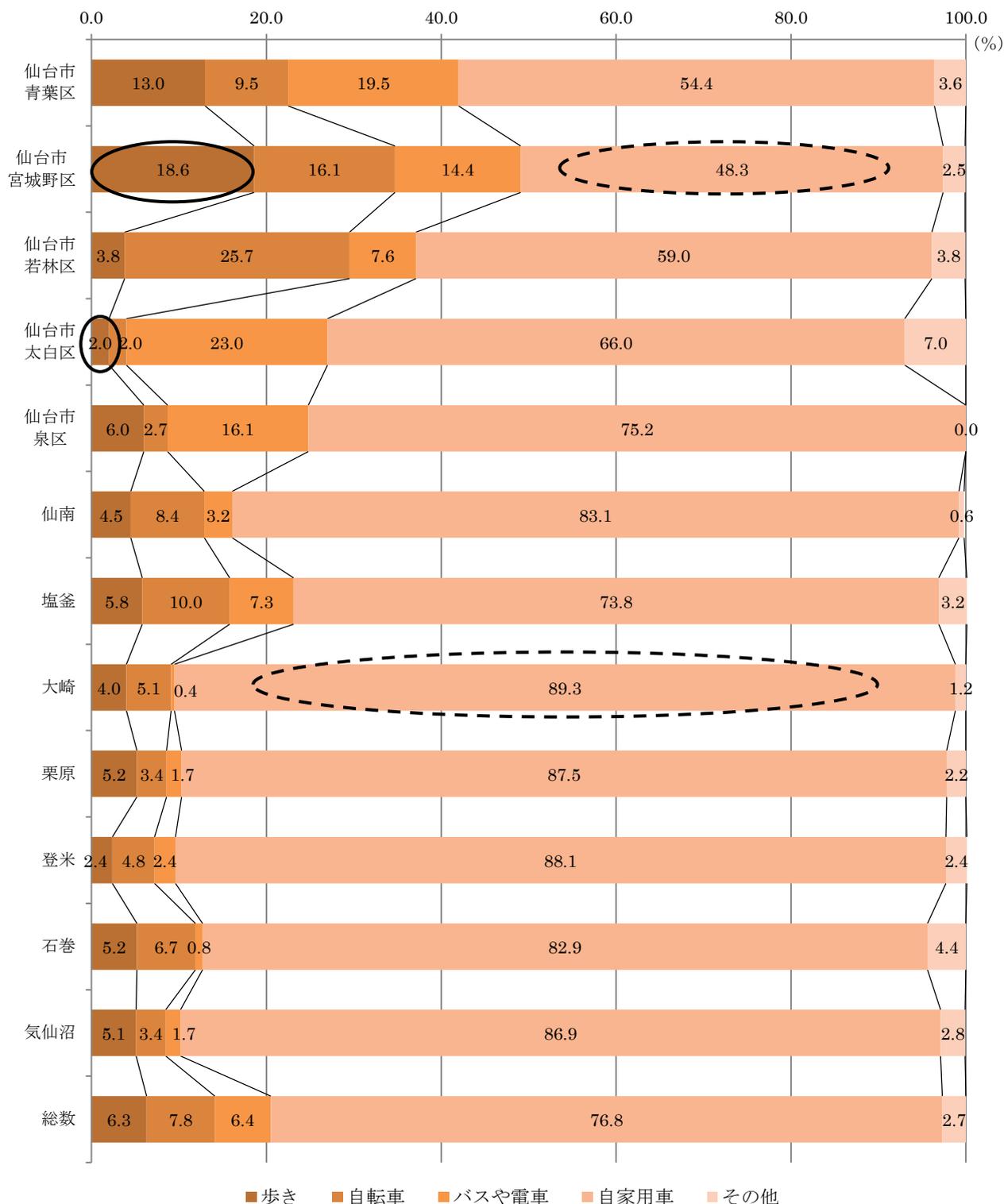
医師等から運動を禁止されていない（問23で2）と回答し、かつ1週間に1日以上運動をしている（問24で1）と回答し、かつ1週間に2日以上運動している（問25で2以上を記載）と回答し、かつ1回30分以上（問26で30分以上と記載）と回答し、かつ1年以上継続している（問28で2）と回答している者

* 「運動習慣者」とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者。

4 外出する際の移動手段の状況

外出する際の移動手段については、歩きの割合が最も高いのは仙台市宮城野区で18.6%、最も低いのは仙台市太白区で2.0%となっている。また、自家用車の割合が最も高いのは大崎地区で89.3%、最も低いのは仙台市宮城野区の48.3%となっている。

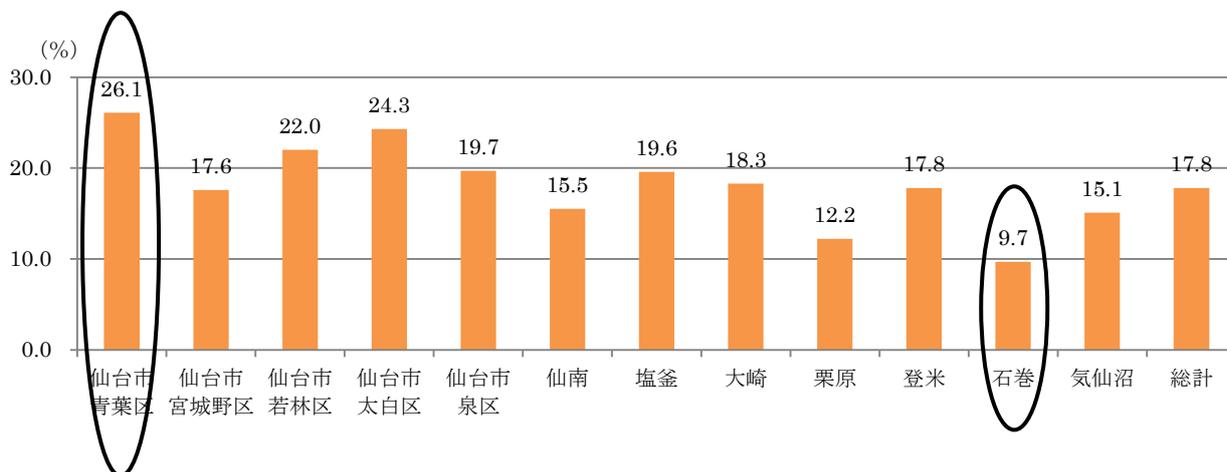
図39 外出する際の移動手段の状況



5 1日の歩数の認知状況

1日の歩数を「知っている」と回答した者の割合は、仙台市青葉区で26.1%と最も高く、石巻地区で9.7%と最も低くなっている。

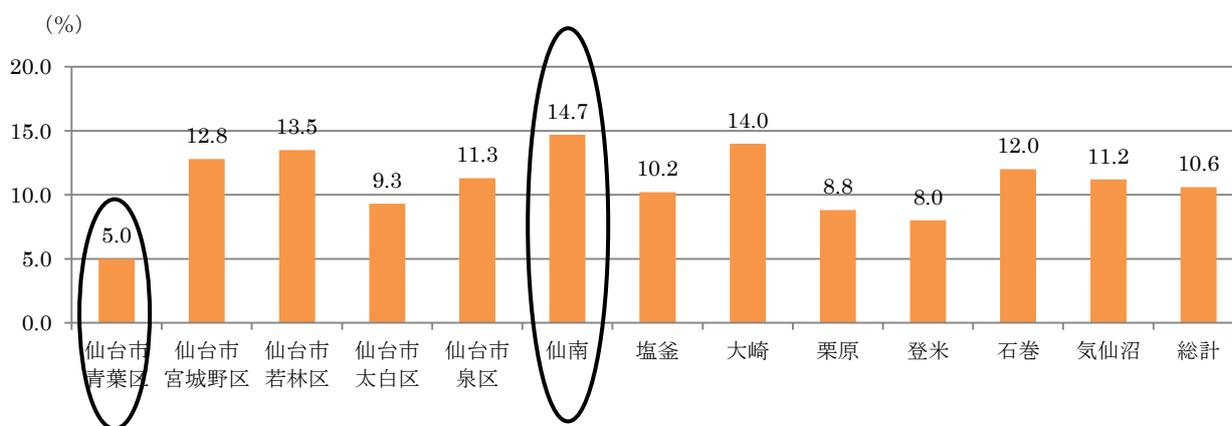
図40 1日の歩数を知っている者の割合



6 朝食欠食者の状況

朝食欠食者（「週に4～5日食べない」「ほとんど食べない」と回答した者）の割合は、仙南地区で14.7%と最も高く、仙台市青葉区で5.0%と最も低くなっている。

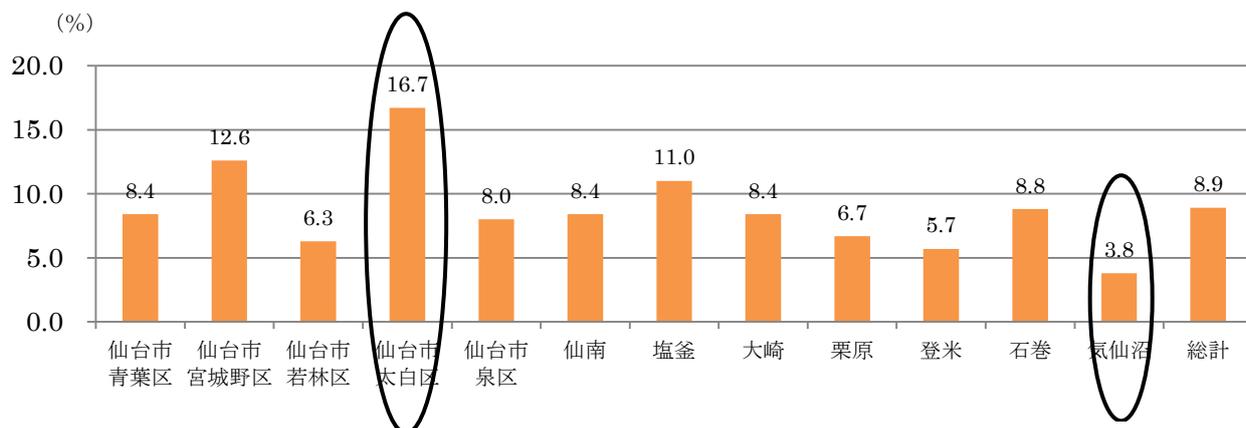
図41 朝食欠食者の割合



7 外食の利用状況

外食を「毎日2回以上利用する」「毎日1回利用する」と回答した者の割合は、仙台市太白区で16.7%と最も高く、気仙沼地区で3.8%と最も低くなっている。

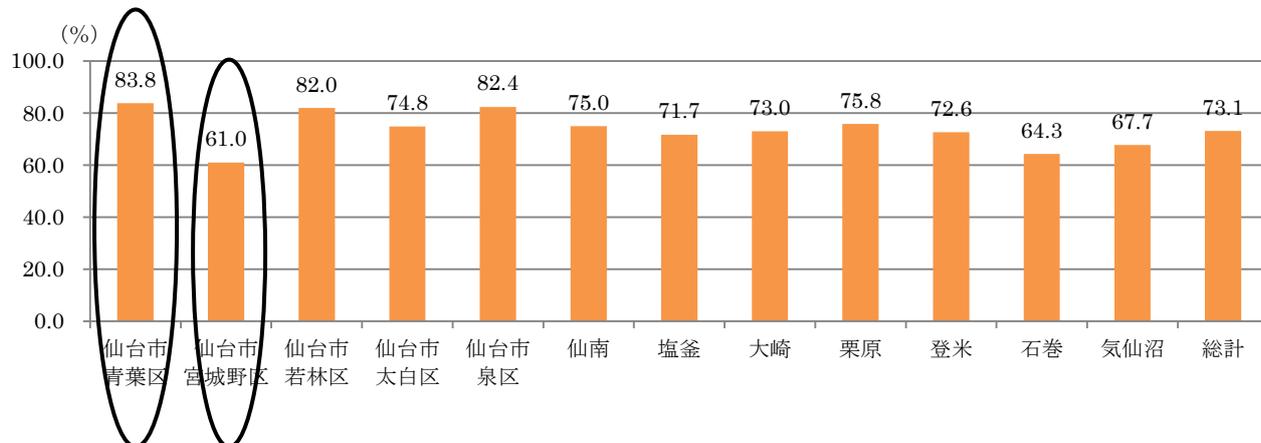
図4-2 毎日1回以上外食の利用する人の割合



8 主食・主菜・副菜をそろえて食べる者の状況

主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしていると回答した者の割合は、仙台市青葉区で83.8%と最も高く、仙台市宮城野区で61.0%と最も低くなっている。

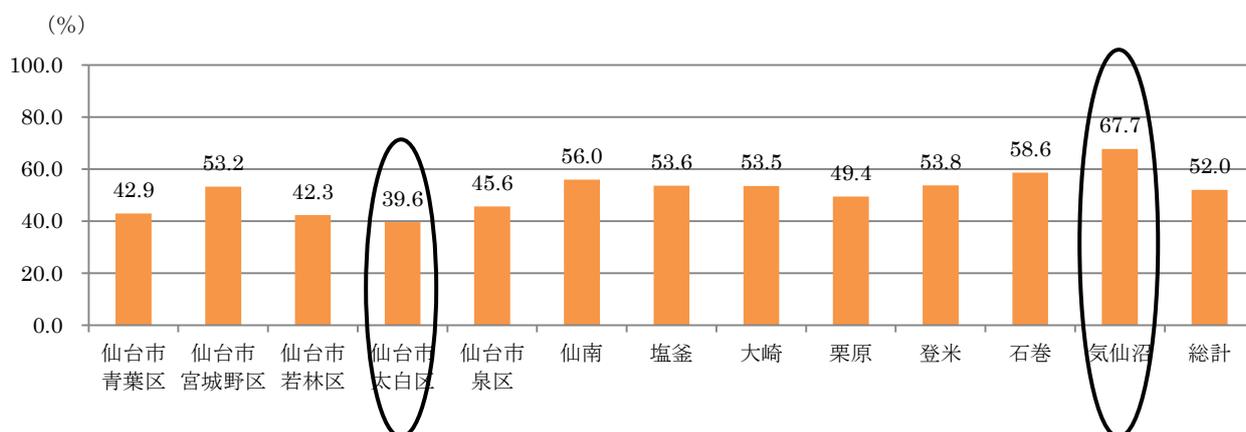
図4-3 主食・主菜・副菜をそろえて食べる者の状況



9 歯科健診の受診状況

歯科健診を受けていないと回答した者の割合は、気仙沼地区で 67.7%と最も高く、仙台市太白区で 39.6%と最も低くなっている。

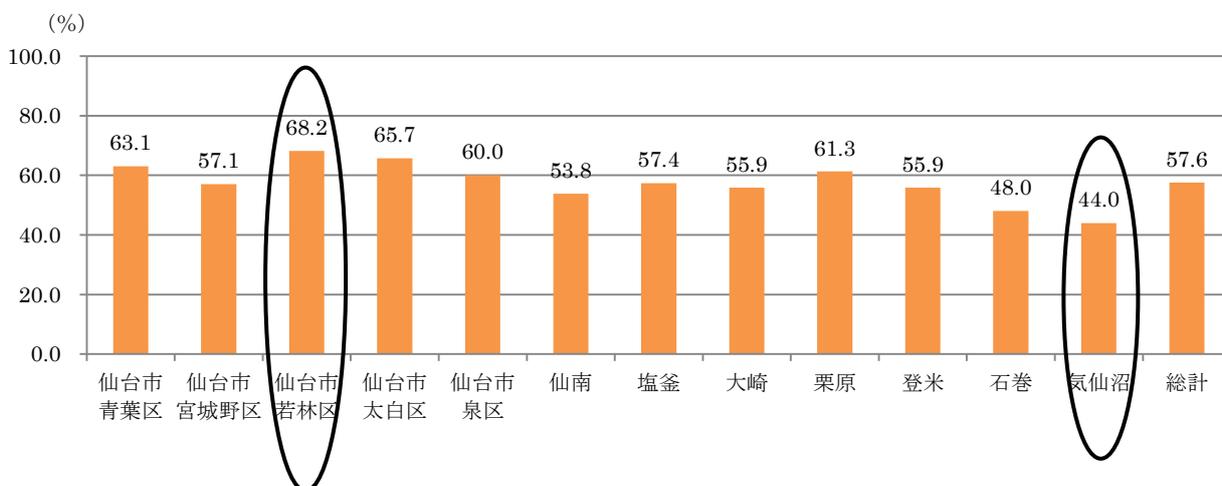
図 4 4 歯科健診を受けていない者の割合



10 かかりつけ歯科医の状況

かかりつけ歯科医がいると回答した者の割合は、仙台市若林区で 68.2%と最も高く、気仙沼地区で 44.0%と最も低くなっている。

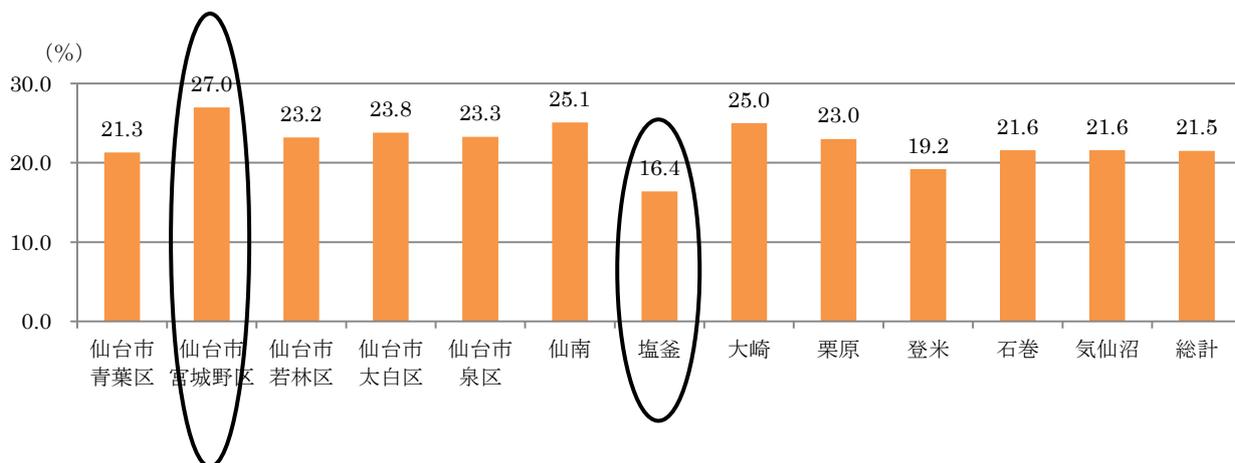
図 4 5 かかりつけ歯科医がいる者の割合



1 1 睡眠による休養の状況

睡眠による休養が「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合は、仙台市宮城野区 27.0%と最も高く、塩釜地区で 16.4%と最も低くなっている。

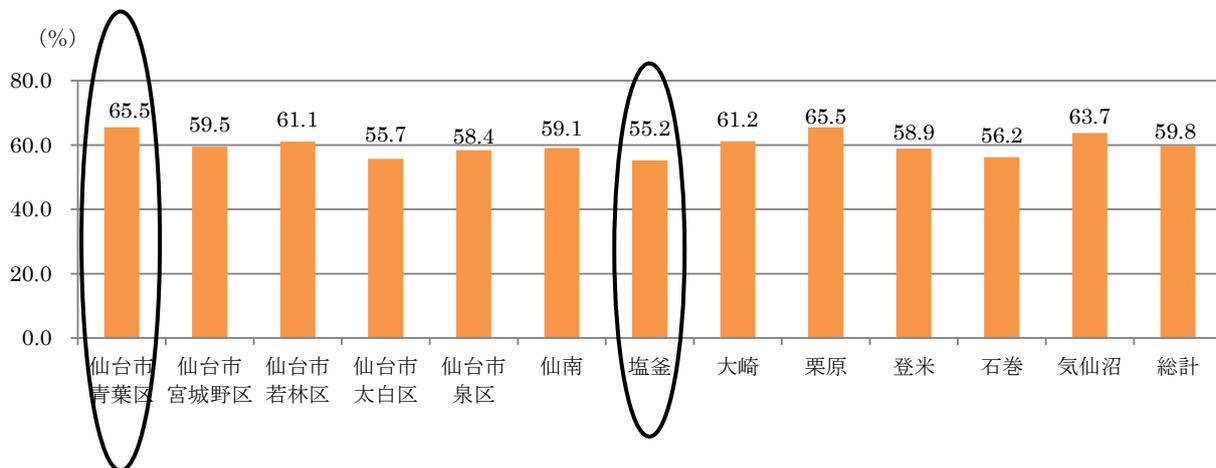
図 4 6 睡眠による休養が「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合



1 2 相談相手がいる者の状況

悩みなどを相談する相手がいると回答した者の割合は、仙台市青葉区で 65.5%と最も高く、塩釜地区で 55.2%と最も低くなっている。

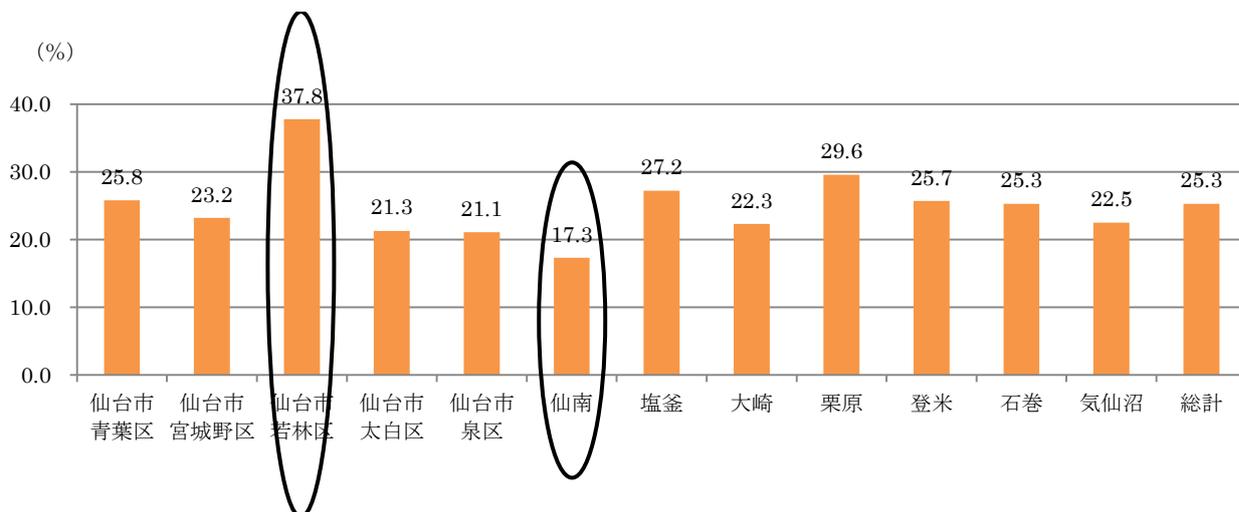
図 4 7 相談相手がいる者の割合



1.3 飲酒の状況

「毎日」「週5～6日」飲酒をする者の割合は、仙台市若林区で37.8%と最も高く、仙南地区で17.3%と最も低くなっている。

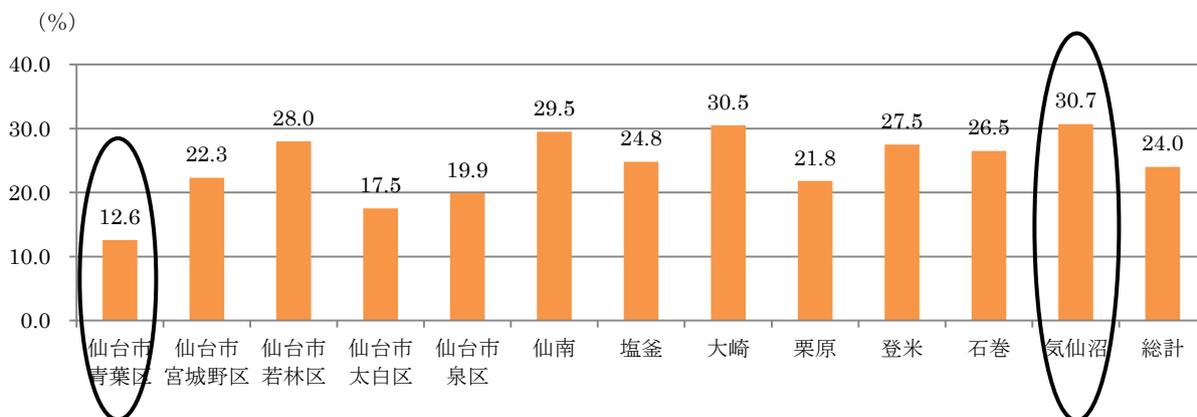
図4.8 「毎日」「週5～6日」飲酒する者の割合



1.4 喫煙の状況

「毎日」「時々」喫煙をする者の割合は、気仙沼地区で30.7%とも高く、仙台市青葉区で12.6%と最も低くなっている。

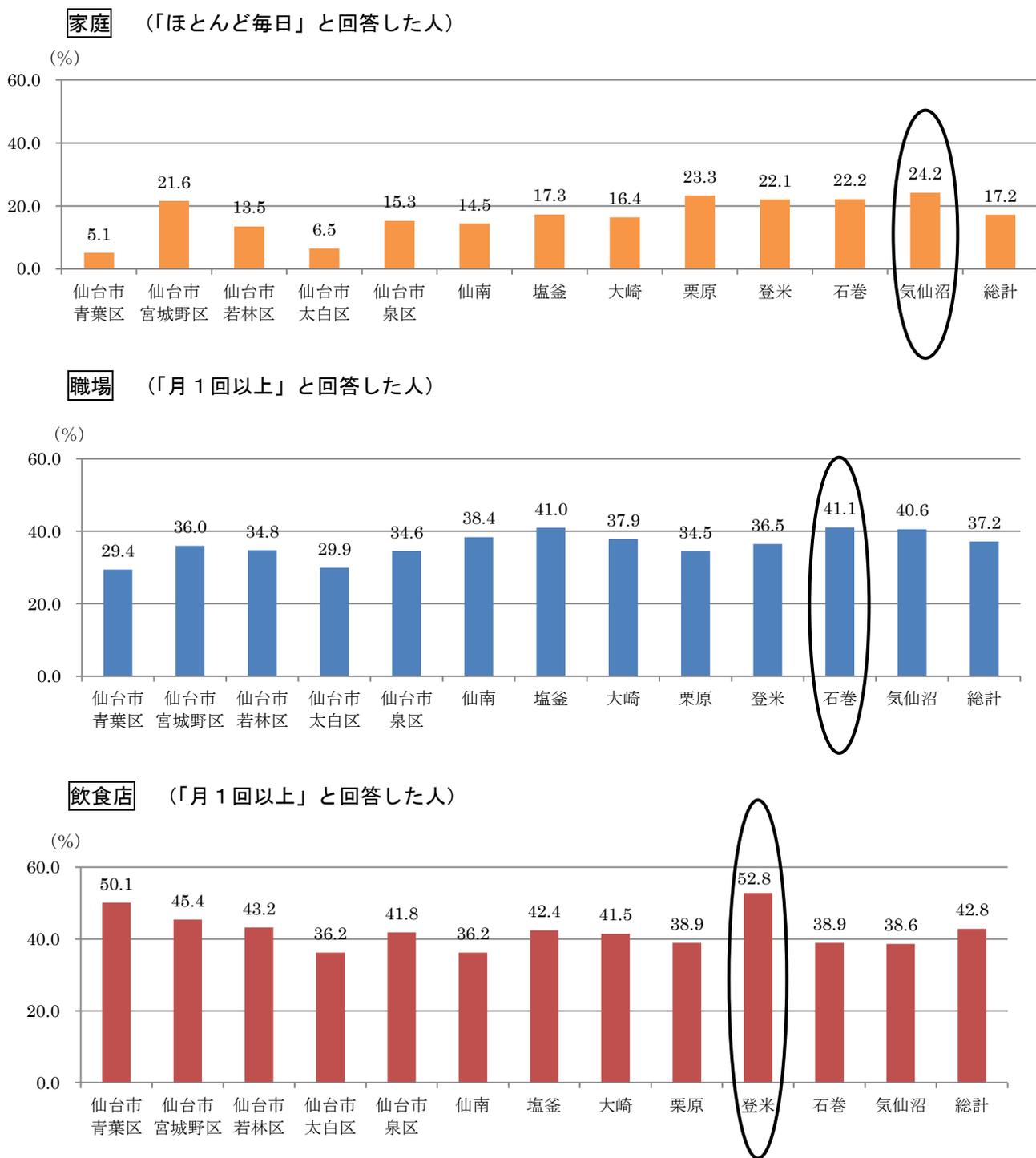
図4.9 「毎日」「時々」喫煙する者の割合



1.5 受動喫煙の状況

受動喫煙を受ける機会について、家庭では「ほとんど毎日」と回答した者の割合は、気仙沼地区で24.2%と最も高く、また、職場では「月1回以上」と回答した者の割合は石巻地区で41.1%、飲食店では「月1回以上」と回答した者の割合は登米地区で52.8%が最も高くなっている。

図50 受動喫煙を受ける機会の状況



1 6 健診の受診状況

過去1年間に健診や人間ドックを受けたことがある者の割合は、仙台市若林区で78.5%と最も高く、気仙沼地区で58.7%と最も低くなっている。

図5-1 健診を受けたことがある者の割合

